

○不動産ニ對スル強制執行

七百七十八

リタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ

〔解義〕〔理由〕本條ハ競賣ニ付セラル可キ不動産ニ對シ第三者タル權利者ノ存在スル場合ヲ示定セリ

法律上ノ法式ニ基キ不動産ヲ取得スル者アランニ其權利ハ何人ト雖モ之ヲ尊重セサル可ラス然レトモ個ハ善意ノ取得者ニ付テノニ適用ス可キ原則ニシテ決シテ惡意ノ取得者ニ適用ス可ラサルナリ若シ其權利取得者ヨシテ該不動産カ已ニ差押ヲ受ケ若シハ競賣ノ申立ヲ受ケタルコトヲ知ラタルニ拘ラス故ラニ登記ヲ經テ之ヲ取得シタルトキハ差押ノ効力ニ對シ決シテ其善意ヲ主張スルコトヲ得ヘカラス即チ差押債權者ニ對シ其權利ヲ讓ラサル可ラサルナリ是レ法律ハ其注意ヲ缺キ若クハ不正ノ所爲ヲ以テ權利ヲ主張セントスル者ヲ保護セサルヲ以テ原則ト爲セバナラズ故ニ本條ハ裏面ヨリ之ヲ言ヒハ權利取得者之ヲ知ラスシテ方式ノ定ムル所ニ依リ不動産ヲ取得シタルトキハ之ヲ善意ノ取得者トナシ

差押ノ効力ニ關シ優等ノ權利ヲ主張シ得ヘキナリ

差押債權者其不動産上ニ効力ヲ有スルモノナルトキニシテ且已ニ其債權ノ爲メニ差押ヘラレタル場合ニ於テハ假令差押ノ事實ヲ知ラサル取得者ト雖トモ之ニ對シ一步ヲ讓ラサル可ラサルナリ若シ債權ノ原因ハ不動産ニ存ストスルモ未タ差押ヲ爲ササル以前不動産ノ所有ヲ移轉シタルトキハ之ヲ取得者ニ責ムルヲ得ヌ何トナレハ差押ヲ施ササル不動産ハ自由ニ轉讓シ得ヘキモノニシテ之ヲ取得シタルモノニ於テハ毫モ其責任ヲ負フ可キ理由アラサレハナリ故ニ此場合ヲ除キ已ニ差押ヲ受ケタル不動産ニシテ且其債權ハ該不動産上ニ原因スルモノナルトキハ差押後ニ取得シタル權利者ヲ顧ミス競賣手續ノ續行ヲ爲ス可キナリ

和解ニ出ツルト其他ノ原因ニ出ツルトトキ間ハス債權者カ競賣ノ申立ヲ取下ケタルトキハ差押ハ消滅スルモノトス

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣

ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送附シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ

○不動産ニ對スル強制執行

七百七十九

其抄本ヲ送付シ得ルノ旨ハ、
 第六百五十二條 豫知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判
 事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取
 消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障碍ノ消滅シタルコト
 ナ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルト
 キハ期間ノ満了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ
 公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ
 申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

〔解義〕〔理由〕〔的例〕第六百五十一條ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際競賣ノ申立アリ
 タルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可キコトヲ示定シ第六百五十二條
 ハ登記判事ハ記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本及ヒ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書ア
 ルトキハ之ヲ裁判所ニ送付ス可キコトヲ示定シ第六百五十三條ハ競賣手續開始ノ決定ヲ
 爲シタル後其不動産カ或ル義務ヲ負ヒ若クハ或ル條件ニ繫カレ競賣ヲ遂行シ得サルモノ
 タルコトヲ發見セラシタル場合ヲ示定シ第六百五十四條ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルト

キハ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコ
 トヲ催告ス可キコトヲ示定セリ

第六百五十一條 裁判所カ第六百四十四條ノ競賣手續ノ開始決定ヲ爲ストキハ一面其不
 動產所在地ノ登記判事ニ囑託シテ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入セシム可ク又
 登記判事ハ此囑託アリタルトキハ登記法第九條ニ從ヒ記入ヲ爲ササル可ラス本條ヲ設ク
 ルノ旨趣ハ差押ノ效力ヲシテ全カラシムルト第三者ヲシテ差押ノアリタルコトヲ知ラシ
 ムルニアリ

第六百五十二條 登記判事ハ差押ノ記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本及ヒ不動産上權利者
 (例ニハ抵當取主賃借主用益權利者要役者ノ類)ヨリ契約證書ヲ差出セルトキハ其抄本ヲ
 裁判所ニ送付セサル可ラス是レ裁判所カ第六百四十九條第六百五十三條等ノ規定ヲ遵守
 スルニ付キ最必要ナレハナリ

第六百五十三條 裁判所カ競賣手續ノ申立アリタル際之ヲ知ルニ於テハ其申立ヲ却下ス
 可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキ例ニハ登記簿ノ謄本契約證書ノ抄本ニ依
 リ其不動産ハ世襲財產ナルコト判然スルカ又ハ其不動産ヲ賣却スルモ差押債權者ニ先ダ
 キ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ洗除スルニ足ルノ見込ナキコトノ顯ハルルトキハ裁判所
 ハ直ニ開始決定ヲ取消ス可シ又其事情ニ依リテハ一定ノ期間内ニ其障碍ノ消滅シタルコ
 ト前例ニテ云エハ世襲財產ノ止セタルコト又ハ負擔ノ義務ニ對シ内拂ノアルコトヲ證明

○不動産ニ對スル強制執行

○不動産ニ對スル強制執行

七百八十二

ス可キコトヲ債權者ニ命スルヲ得ヘシ此場合ニ於テ債權者其證明ヲ爲ササルトキハ期間満了ノ後其手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條 裁判所カ第六百四十四條ノ競賣手續ノ開始決定ヲ爲ストキハ一面公課ヲ主管スル官廳ニ通知シテ其不動産ニ對スル租稅其他市町村費等ノ滞納アリヤ否若シ滞納アレハ其員數幾何ナルヤノ一定ノ期間内ニ申出ツ可キコトヲ催告ス可シ若シ官廳ヨリ申出テアルトキハ配當表ニ掲ケテ配當ヲ爲ササル可ラス

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先ツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受タ可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキ

ハ競賣手續ヲ取消ス可シ

〔解説〕 第六百五十五條ハ不動産ノ最低競賣價格ヲ定ム可キ時期及ヒ其方法ヲ示定シ其六百五十六條ハ最低價格ヲ定ムルノ必要即チ之ヲ定ムルヨリ生スル効果ヲ示定セリ

第六百五十五條 不動産ハ動産ニ比スレハ概テ貴重ナルヲ以テ如何ナル低價ニテモ之ヲ賣却スルカ如キコトヲ許サヌ是ヲ以テ裁判所ハ登記判事ヨリ第六百五十二條ノ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ第六百五十四條ノ通知ヲ受ケタルトキハ鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト定ム可キナリ而シテ此鑑定人ニハ第三百二十二條以下ノ鑑定ニ付テノ規定ヲ適用スルニ及ハス就中宣誓ヲ爲サシムルヲ要セサルニシテ又鑑定人ヲシテ一々不動産所在地ニ就キ鑑定セシムルトキハ其費用ヲ要スル少ナカラサルヲ以テ登記ノ模様及ヒ之ニ賦課スル租稅其他ノ公課等ヲ斟酌シ之カ評價ヲ爲サシムルコトヲ務メサル可ラス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ不動産ノ總テノ負擔即チ登記簿ニ顯ハルル所ノ抵當其他ノ優先權又ハ租稅其他ノ公課及ヒ強制競賣手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘ヲ得ルノ見込ナキトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ而シテ債權者カ通知ヨリ七日内ニ總テノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキトキハ自ラ其價額ヲ以テ買受タ可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立ツルトキハ次條ニ從ヒ競賣ノ手續ヲ進行ス可シ然ラサルトキハ第六百四十九條第一項ノ精神ニ基キ競賣手續ヲ取

○不動産ニ對スル強制執行

七百八十三

消大可キナリ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 租稅其他ノ公課

第三 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃

第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

第六 最低競賣價額

第七 競落期日ノ場所及日時

第八 執行記録ヲ閲覧シ得ヘキ場所

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十 利害關係人競賣期日ニ出頭スヘキ旨

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ掲示板

第二 不動産所在地ノ市町村ノ掲示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

〔解義〕〔理由〕第六百五十七條ハ競賣期日及競落期日ヲ定ム可キ場合ヲ示定シ第六百五

○不動産ニ對スル強制執行

○不動産ニ對スル強制執行

七百八十六

十八條ハ競賣期日ハ公告ニ具備ス可キ要件ヲ示定シ第六百五十九條ハ競賣期日ト公告ノ日トノ間ニ存ス可キ期間及ヒ競賣期日ヲ開ク可キ場所ヲ示定シ第六百六十條ハ競落期日ト競賣期日ノ間ニ存ス可キ期間及ヒ競落期日ヲ開ク可キ場所ヲ示定シ第六百六十一條ハ競賣期日ノ公告ヲ揭示ス可キ場所ヲ示定セリ

第六百五十七條 最低競賣價額ヲ以テ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ競賣費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ルノ見込アルトキ又ハ剩餘ヲ得ルノ見込ナキモ差押債權者ニ於テ前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立ツルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス可キナリ

第六百五十八條 本條ハ競賣期日ノ公告ニハ必ズ第一號乃至第十號ノ諸件ヲ具備セサル可ラサルコトヲ規定セルモノニシテ各號ニ掲クル事項ハ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日後ニ開カサル可ラストセリ是レ成ルヘク衆人ニ競賣ヲ知ラシメ以テ多クノ競買人ナシテ參會セシメシカ爲メナリ競賣期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム其他ノ場所トハ專ラ不動産所在地ヲ指シタルモノナラシ何トナレハ其不動産ノ摸樣能ク知悉セララルヲ以テ之ヲ賣却スルニ便利ナルコト少ナカラサレハナリ

第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ヌ又此期日ハ裁判所ニ於

テ之ヲ開クモノトス

第六百六十一條 本條ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス可キ場所及ヒ新聞紙ニモ掲ク可キ方法ヲ示定セシマラシメシテ別ニ解釋ヲ要セス

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非ラサレハ其競賣ヲ許サス

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直ニ之ヲ述ブルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

○不動産ニ對スル強制執行

七百八十七

○不動産ニ對スル強制執行

七百八十八

〔解釋〕第六百六十二條ハ競賣ニ關スル諸條件ヲ利害關係人ノ合意ヲ以テ變更シ得ヘキコトヲ示定シ第六百六十三條ハ競賣期日ヲ開キタル後執達吏カ盡ス可キ職務ヲ示定シ第六百六十四條ハ競買ヲ爲サント欲スル者ヲシテ保證ヲ立テシムルヲ得ヘキ場合ヲ示定セリ

第六百六十二條 競賣ニ付テノ利害關係人互ニ合意スルトキハ第六百五十五條ノ最低價額ヲ變更ス可シサル外本款ニ掲クル其他ノ賣却條件即チ第六百五十九條第六百六十條第六百六十一條第六百六十四條第六百六十五條第六百六十六條第六百六十七條ノ規定ニ於ケル諸件ヲ變更スルコトヲ得ヘシ例ニハ第六百五十九條第一項ノ十四日ノ時間ヲ伸縮シ又競賣期日ノ場所ヲ合意上指定シ又ハ執達吏外ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシムルノ類是ナリ

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行ニ關スル書類ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又前條ノ規定ニ於ケル特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競賣價額ヲ申出ツ可キコトヲ催告ス可シ

第六百六十四條 競買ヲ申出ツル者アリテ其人資力薄ク又信用ヲ措クニ足ラヌトスルトキハ利害關係人ハ之ニ保證ヲ立テシメシコトヲ申立ツルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ執達吏ハ其競買人ヨリ保證トシ競買價額十分ノ一ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直ニ已ニ預ケシムルニテシテハ其競買ヲ許ヌ可カラズ又右申立テ競買價額ヲ申出テアリタル後直ニ之ヲ述ヘサル可ラス又一度保證ヲ立テシメシ

コトノ申立テ爲ストキハ其保證ヲ申立ラレタル競買人ハ何度競買價額ヲ申出ツルトモ猶其保證ヲ立ツルコトヲ免レサルモノトス

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
競賣ハ競買價額ヲ申出ス可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

第六百六十七條 競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 差押債權者ノ表示
- 第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキ

○不動産ニ對スル強制執行

七百八十九

ハ之ヲ告知シタルコト

第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添付ス可シ

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス

可シ

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲ

モ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

〔解義〕〔的例〕 第六百六十五條ハ競賣ヲ實行スル場合ニ於テ競買人タル者ノ責務及ヒ競賣終局ノ時間ヲ示定シ第六百六十六條ハ競賣ヲ終局スル方法及ヒ競賣終局ヨリ生スル結果ヲ示定シ第六百六十七條ハ競賣ニ付キ作ル可キ調書ニ具備ス可キ要件ヲ示定シ第六百六十八條ハ競賣終局ノ後執達吏ノ盡ス可キ職務上ノ行爲ヲ示定シ第六百六十九條ハ最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ假住所ヲ選定ス可キヲ示定シ第六百七十條ハ競賣期日

○不動産ニ對スル強制執行

ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキ場合ニ於ケル裁判所ノ處置ヲ示定セリ

第六百六十五條 競買價額ノ申出ヲ爲シタル者ハ更ニ其レヨリ高價ナル競買人アルマテハ其申出タル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス即チ高價ノ競買人アラサルトキハ已ノ申出タル價額ニテ競落ノ決定ヲ受ク可ク若シ其レヨリ以上ノ價額ニテ競買ノ申込ヲ爲スモノアルトキハ先キノ低價ナル競買ノ申出ハ自然消滅ニ歸ス可キナリ此ニ許サレタル各競買人トアルハ前條ノ保證ヲ立ツ可キ申立ヲ受ケタルトキ直ニ其保證ヲ立テタル競買人又保證ヲ立ツルコトノ申立ヲ受ケサル競買人ヲ謂フナリ換言セハ法律上有効ナル競買人ト云フノ義ナリ

競買ハ第六百六十三條ノ競買價額ヲ申出ツ可キ催告ノ後滿一時間ヲ過クルニ非ラサレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス是レ成ル可ク高價ナル競買價額ノ申出ヲ得ンコトヲ欲スレハナリ

第六百六十六條 執達吏ニ於テ競買ノ終局ヲ告知セントスルニハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後之ヲ爲ササル可ラス他ノ競買人ハ右誰某カ價額何程ニ競買ヲ申出テタル旨ノ告知ヲ受クルニ因リ前條第一項ノ責務ヲ免カル、モノトス隨テ第六百六十四條ニ因リ保證ヲ預クルトキハ直ニ執達吏ニ對シ其返還ヲ求ムルコトヲ得ヘン

第六百六十七條 本條ハ不動産競買ニ付キ執達吏カ特ニ調書ニ具備セサル可ラサル要件ヲ規定シタルモノニシテ執達吏カ執行行爲ニ付キ一般ニ作ラサル可ラサル調書ノコトハ

第五百四十條ニ規定シアルヲ以テ彼此參照ノ上第五百四十條ニ掲クル事項ニシテ本條中ニ漏レタルモノアルトキハ本條ノ調書ニモ固ヨリ之ヲ適用セサル可ラス

第一號乃至第八號ノ事項ハ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

第六百六十八條 執達吏ハ前條ノ調書及競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノ(即チ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ヨリ預リタル保證又ハ第六百六十六條第二項ノ者カ保證返還ヲ受ケヌシテ退席シタルトキ)ハ三日内ニ之ヲ裁判所書記ニ引渡ス可キモノトス

第六百六十九條 本條ハ屢々遭遇シタル法條ト同一精神ニ出ツルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

第六百七十條 競買期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキ即チ絶テ競買人ノアラサルトキ競買アルモ第六百五十五條ノ最低價額ニ達セサルトキ又保證ヲ立ツ可キ申出ヲ受ケタルニ之ヲ立テサルトキハ裁判所ハ相當ニ最低價額ヲ低減シ新競買期日ヲ定ム可シ其期日ニ於テモ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同斷ノ手續ヲ爲スモノトス然レトモ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害スルホトニ價額ヲ低減スルコトヲ許サス故ニ反言セハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル以上ハ幾度ニテモ價額ヲ低減シテ競買期日ヲ開クコトヲ得ヘシ

競買期日ハ公告ノ日トノ間ニ少ナクトモ十四日ノ期間ヲ存セサル可ラス

○不動産ニ對スル強制執行

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ就テモ亦同シ

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クテ要ス

第一 強制執行ヲ許ス可ラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力

ナキコト

第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得ヌン法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササル

コト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

コト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背

シタルコト

シタルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタル

コト

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之

ヲ許サス

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權

ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓

渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲナシタルトキニ

限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルト

キニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサ

ルトキニ限ル

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却スヘキモノヲ指定スルコトヲ得第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

〔解義〕〔理由〕〔的例〕第六百七十一條ハ競落ニ付キ異議ヲ爲シ得ヘキコト及ヒ之ヲ爲ス可キ時期ヲ示定シ第六百七十二條ハ異議ヲ爲ス可キ如何ナル理由ニ基ク可キヤヲ示定シ第六百七十三條ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニテハ異議ヲ爲ス可ラサルコトヲ示定シ第六百七十四條ハ異議ヲ正當トスル場合ニ於テ裁判所ノ爲ス可キ處分法ヲ示定シ第六百七十五條ハ強制執行ヲ爲スニ付テノ程度ヲ示定シ第六百七十六條ハ新競賣期日ヲ定ム可キ場合及ヒ其期間ヲ示定セリ

第六百七十一條 第六百五十八條第七號ニ因リ豫テ競賣期日ノ場所及日時ヲ公告シタルヲ以テ其期日ニハ第六百四十八條ノ利害關係人及ヒ最高價競買人ノ呼上ヲ受ケタル者出

頭スルナル可シ若シ欠席スル者アルトキハ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付テノ陳述ヲ爲サシム可キナリ然レトモ競落ノ許可ニ付テノ異議及ヒ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テハ期日ノ終リマテ即チ競落許可ノ決定ニ至ルマテ之ヲ爲ス可クシテ此期日ヲ過クルトキハ最早異議ノ申立ヲ爲ス可ラサルモノトス

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ニ掲クル第一號乃至第八號ノ理由ニ基クテ外之ヲ許ササルモノトス即チ第一項ニ要ストアルニ因リ其精神ヲ見ルニ足ル可シ

第一 強制執行ヲ許ス可ラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可ラサルコト

強制執行ヲ許ス可ラサルコトハ世襲財産ヲ差押ヘ競賣ニ付シタル如キ又第六百四十九條第一項ノ規定ニ背テ競賣ニ付シタル如キヲ云ヒ執行ヲ續行ス可ラサルコトハ第五百五十條ノ依リ強制執行ヲ停止シ若クハ制限ス可キ事項ノ生シタル如キヲ云フ

第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト

幼年者又ハ禁治産者ノ如キハ法律上ノ規定ヲ以テ賣買ヲ爲スコトヲ得セシメス故ニ最高價競買人ニシテ此等契約ノ能力ヲ有セサルトキハ後日其賣買ヲ取消サルルモ圖リ知ル可ラサルヲ以テ此場合ニ於テハ利害關係人ハ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシ

第三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第六百五十五條第六百五十九條第六百六十條第六百六十一條第六百六十五條第六百六十

○不動産ニ對スル強制執行

六條等ノ規定ニ背テ競賣ヲ爲シタルトキ又利害關係人ノ合意アラサルニ右等ノ條件ヲ變更シタルトキハ異議ノ理由トナル

第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六百六十一條ノ規定ニ背テ公告シタルトキヲ云フ

第六號以下ハ一讀明瞭ナルヲ以テ解釋ヲ要セス

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サズ是レ利益ナケレバ訴權ナシト云ユル原則ニ基ケルモノトス

第六百七十四條 第六百七十一條及ヒ第六百七十二條ニ依リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ其異議ヲ正當ト認ムルトキハ競落ヲ許ササル決定ヲ爲ス此場合ニ於テ絶對ニ競賣ヲ許ササルモノナルトキハ此決定ヲ爲シタル而已ニシテ爾後ノ手續ヲ止ム可ク若シ競賣ヲ許スモノトスルトキハ第六百七十六條ニ從ヒ新競賣期日ヲ定メテ再度ノ競賣ニ付スヘキナリ

又利害關係人ヨリ異議ヲ申立テサルトキト雖トモ第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ競落ヲ許ササル決定ヲ爲ス可キナリ然レトモ第六百七十二條第一號乃至第三號ノ事項ニ限リテハ絶對ニ競落ヲ許サストノ決定ヲ爲スコトヲ得ス即チ第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナリ

サルトキ例ニハ其不動産カ華族ノ世襲財産ニ係ルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキ即チ第五百五十條ニ依リ執行ノ停止セラルルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキ例ニハ幼年者カ未タ丁年者トナラサルトキ又禁治産者カ未タ治産者タルノ宣言ヲ受ケサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人カ手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限リ競落ヲ許サストノ決定ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ第四號乃至第八號ノ事項ノ一アルトキハ假令其中立アラストモ絶對ニ職權上競落ヲ許ササル決定ヲ爲スコトヲ得可シ

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ其一二ノ不動産ヲ賣却シタル賣得金ノ金額各債權者ニ對スル債務ノ額ヲ辨濟シ及強制執行ニ關スル費用ヲ償フニ足ルトキハ他ノ不動産ニ付テハ之カ競落ヲ止息セサル可ラス是レ債權及ヒ執行費用ヲ償フニ足ルニ尙ホ他ノ不動産ノ競落ヲ許ストキハ徒ニ債務者ノ財産ニ迫害ヲ加フルノミニシテ毫モ之ヲ爲スノ必要ナケレハナリ本條ハ要スルニ動産ニ對スル強制執行ニ於ケル第五百六十四條第二項ト同一旨趣ニ出ツルモノナラン

此場合ニ於テハ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルノ權アリ蓋シ人ノ財産ヲ有スルヤ其好ム所ニ於テ厚薄アリ從テ其賣却ヲ欲スルノ情ニモ輕重アルカ爲メナラン若シ債務者此選擇ヲ爲ササルカ又競落期日ニ欠席スルトキハ裁判所適宜ニ之ヲ示定シテ可ナリ

○不動産ニ對スル強制執行

○不動産ニ對スル強制執行

第六百七十六條 第六百七十二條及第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ競落ヲ許サスト決定シタル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキ即チ絕對ニ競賣ヲ許ササルニ非ラサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ムヘキナリ此競賣期日ハ少ナクトモ前競賣期日ヨリ十四日ノ後タラサル可ラス

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第百二十九條乃至第百三十二條及ヒ第百二十四條ノ規定ヲ準用ス

〔解義〕 本條ハ競落決定ノ言渡ニ關スル規定ナリ

前條ハ競落ヲ許ササルモ絕對的ニ之ヲ許ササルニ非ラスシテ更ニ新期日ヲ定メテ競賣ニ付ス可キ場合ヲ規定セシモノニシテ本條ハ競落ヲ許シ又ハ絕對的ニ之ヲ許ササルトキハ競落ヲ許シ又ハ競落ヲ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可キ場合ヲ規定セシモノナリ今競落ヲ許ス場合ト之ヲ許ササル場合トチ舉ク

一 競落ニ付キ第六百七十一條第六百七十二條ノ異議ノ申立ナキトキ其異議ノ申立アルモ第六百七十二條ノ理由アラサルトキ又第六百七十四條第三項ノ如ク職權ヲ以テ競落ヲ許ササル場合ニモアラサルトキ以上ノ場合ニ於テハ直チニ競落ヲ許スノ決定ヲ言渡

ス可キナリ

二 競落ヲ許ス可ラサル場合ニシテ更ニ再度ノ競賣ニ付スルコトヲ得サルモノナルトキ即チ絕對ニ競賣ヲ許ス可ラサルトキハ競落ヲ許ササルノ決定ヲ言渡ス可キナリ

本條ヲ一見スルトキハ前條ノ競賣ヲ許ササル場合ニシテ更ニ競賣ヲ爲ス可キトキハ別ニ決定ヲ與ニスシテ可ナルカ如キモ決シテ然ラス前條ト本條トハ唯絕對的ニ之ヲ許スト否トノ差アルノミニシテ其競落ヲ許ササルニ至テハ同一ナリ故ニ第六百七十四條第一項ニ從ヒ異議ヲ正當トスルトキハ猶ホ競落ヲ許ササルノ決定ヲ爲ス可ク而シテ絕對ニ之ヲ許ササルニ非ラスシテ再ヒ競賣ニ付スルモノナルトキハ之ヲ許サストノ下ニ新競賣期日ヲ定ムトノ言渡ヲ附加スルヲ可トス

競賣期日ニハ書記之ニ立會ヒ第百二十九條乃至第百三十二條及ヒ第百三十四條ノ規定ニ從ヒ調書ヲ作ル可キナリ而シテ口頭辨論ヲ經スシテ言渡ヲ爲ス可キトキハ常ニ法文ニ明記シアルニ本條ハ之カ明文アラサルヲ以テ利害關係人ヲシテ辨論ヲ悉サシメ然ル後之カ言渡ヲ爲ササル可ラス

第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

○不動産ニ對スル強制執行

〔解説〕本條ハ不動産カ競賣期日ト競落期日トノ間ニ著シク毀損シタルトキノ場合ニ於ケル競買人ノ權利ヲ示定セリ

普通ノ賣買ニシテ其目的物確定スルトキハ合意ノミニ因リ其所有權買主ニ移轉スルヲ以テ爾後ノ危険ハ無論買主ニ於テ擔任ス可シト雖トモ競賣ニ因ル賣買ハ競賣期日ニ至リ始テ競落人ノ何人タルコト確定スルカ故ニ未タ競落期日ニ至ラサル間ニ他ノ原因ヨリシテ著シク其目的物ニ毀損ヲ生シタル時ハ之ヲ理由トシテ其競買ヲ取消サシメ得ルコトトセリ而シテ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ豫メ一定ス可ラサルヲ以テ之ヲ裁判所ノ斟酌ニ任ズト雖トモ不動産ノ本体ヲ毀損シ之ヲ使用スル能ハサルカ如キハ蓋シ著シキ毀損中ニ入ルサル可シ競買ノ取消ヲ許シ競落ヲ許ササルトキハ爾後如何ス可キヤハ第六百八十五條ニ至リテ知ルコトヲ得ヘシ

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲シ可シ

右決定ニ之ヲ言渡シ外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

〔解説〕本條ハ競落許可ノ決定ニ掲ケ可キ事項ヲ示定セリ
競落ヲ許ス決定ニハ第一競落ヲ爲シタル不動産第二競落人ノ住所氏名第三競賣價額第四

特別ノ賣却條件アルトキハ其條件ヲ掲ケテ之ヲ言渡シ尙ホ其言渡書ヲ裁判所ノ掲示板ニ揭示ス可キモノトス

本條ニ明文アラザルモ競落ヲ許スノ決定ヲ爲ストキハ代金支拂ノ期日ヲモ指定セサル可ラシ若シ然ラサルトキハ第六百八十八條ニ所謂代金支拂期日ノ定マル可キ時期ナクハナリ

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ル

可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十二條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

○不動産ニ對スル強制執行

八百四

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ抵觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケララルコト無シ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ公告ス可シ

〔解義〕〔的例〕第六百八十條乃至第六百八十三條ハ競落許可ニ付テハ決定ニ對スル即時抗告ニ關スル規定ナリ

第六百八十條 左ニ掲ケルモノハ競落ノ許可ニ付テハ決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得可シ

第一 其決定ノ爲メニ損害ヲ被ムル可キ利害關係人利害關係人ト雖トモ其決定ニヨリ損害ヲ被ムルコトナキニ於テハ決シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第二 競落ヲ許ス可キ理由ナキコト若クハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ競落ヲ許ス可キコトヲ主張スル競落人

競落ヲ許スヘキ理由ナキコトヲ主張スルトハ例ニハ第二ノ競落人ナルコトニ競落ヲ許シタルトキ自己ニ競落ヲ許スヘキニ非ラズトシテ抗告ヲ爲スカ如シ又決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ競落ヲ許スヘキコトヲ主張スルトハ例ニハ競落許可ノ決定中ニハ第六百七十九條第一項ノ特別賣却條件ヲ掲ケサルモ實際ニ於テハ第六百六十二條ノ規定ニ從ヒ賣却條件ヲ變更シ其代金ハ月賦拂トスヘキ旨ヲ合意シタルトキハ此賣却條件ヲ以テ競落ヲ許スノ決定ヲ爲スヘキモノトシ其決定ニ對シ抗告ヲ爲ス場合ノ如キ是ナリ

第三 自己ヲ以テ競落人ト爲スコトヲ主張スル競落人

競落ヲ許ササル決定ヲ爲シタル場合ナルト他ノ競落人ニ競落ヲ許シタル場合トヲ問ハス已レニ競落ヲ許スコキモノナルコトヲ主張シテ其競落ヲ求ムル競落人ハ此抗告ヲ爲スコトヲ得可シ但此競落人ハ自己ノ競落價額トシテ申出タル價額ニ拘束セララルモノトス右利害關係人又ハ競買人ヨリ即時抗告ヲ爲シタルトキハ執行ヲ停止スルモノトス第六百八十一條 前條ノ利害關係人又ハ競買人ハ如何ナル理由ニテモ抗告ヲ爲シ得ルニ非ラズ必ズ左ノ理由ニ基カサル可ラス

○不動産ニ對スル強制執行

八百五

○不動産ニ對スル強制執行

第一 競落ヲ許ササル決定ニ對スルトキハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ第六百七十二條ニ掲クル原因アラサルヲ以テ之ヲ許ササルノ謂ハレナシト主張スルカ如キ是レナリ

第二 競落ヲ許シタル決定ニ對スルトキハ此法律ニ掲クル競落ノ許否ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ即チ第六百七十二條ニ掲クル各號ノ原因ヲ理由トスルトキ又ハ競落許可ノ決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキ例エハ競落期日ノ調書ニ記載ノ競買價額ト異ナル代金ヲ以テ許可ノ決定ヲ爲シタルカ如キ場合ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得可キ

然レトモ取消ノ訴若シハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスルトキハ如何ナル場合ニ拘ラス抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ一般ノ抗告ニ付キ定メタル手續ニ從フノ外必要ト認ムルトキハ抗告ニ付テノ相手方ヲ定メ之ニ反對陳述ヲ爲サシム可シ又一個ノ決定ニ對シ二個以上ノ抗告ヲ爲スモノアルトキハ其抗告ヲ併合シテ審判ス可キナリ

此抗告ニシテ第六百七十三條第六百七十四條ニ該ル可キトキハ該條ヲ準用シテ競落ヲ許ササル裁判ヲ爲スコキナリ

第六百八十三條 本條ハ抗告裁判所前決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタルトキハ執行裁判所ハ其裁判ニ適當ノ時間裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可キコトヲ規定セシマテニシテ別

ニ解釋ヲ要セス本條ヲ設ケタルハ利害關係人又ハ競買人ニ之ヲ知ラシムルノ旨趣ニ出

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落

ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

〔解義〕 本條ハ競落ヲ許ササル決定ヲ確定効力ヲ示定セリ

本條ニ所謂競落ヲ許ササル決定ニハ第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ニ依リ執行裁判所ノ爲ス決定ト第六百八十二條末項ニ依リ抗告裁判所ノ爲ス決定ノ二箇ヲ包含ス此決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ競買ノ責務ヲ免カルモノトス

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許

ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

〔解義〕 本條ハ第六百七十八條ノ競買期日ト競落期日ノ間ニ其不動産カ著シク毀損シタル

ニ因リ其競買ヲ取消シタルトキハ爾後如何ナル手續ヲ履踐ス可キヤヲ示定セルモノニシテ此場合ニ於テハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用シテ更ニ鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其價額ヲ以テ不動産上ノ負擔及ヒ執行費用ヲ辨濟シテ剩餘ヲ得ル見込アリヤ否ヤヲ定メ或ハ一般ノ規定ニ從テ競賣及ヒ競落期日ヲ定ムルカ或ハ競賣手續ヲ取消ス可キヤヲ決定ス

○不動産ニ對スル強制執行

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

〔解義〕 本條ハ競買ノトキハ其不動産ノ所有權ハ何ノ時ニ移轉スヘキヤヲ示定セリ

第六百七十八條ニ於テ説述スル如ク競買ノ場合ハ普通ノ賣買ト異ナリ其賣買ノ確定スルハ競落決定ノ時ニ在ルモノナリ從テ其所有權モ競落ヲ許スノ決定アリテ始メテ最高價競買人ニ移轉スルモノトス故ニ此レヨリ以後ニ生スル損害ハ無論競買者ニ於テ負擔ス可ク又其不動産ヨリ生スル利益モ競買者ノ取得ニ歸ス可キナリ

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ金額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

〔解義〕 本條ハ競落物件ノ引渡ハ何時之ヲ爲ス可キヤ其他引渡ニ關スル手續等ヲ示定セリ 競落人ハ前條ノ規定ニ從ヒ競落許可ヲ決定ニ因リ其所有權ヲ取得スルト雖トモ代金全額ヲ支拂フタル上ニ非ラサレハ之ガ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス是レ賣買法ノ原則ヨリ生スル自然ノ結果ナリ

競落決定ト支拂期日トソ間該不動産ヲ債務者ノ手中ニ存セシムルトキハ或ハ之ヲ毀損スルノ恐れアルカ或ハ競落人ガ其収益ヲ納ムル能ハサルノ恐れアルトキハ裁判所ハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ管理人ヲ命シテ該不動産ヲ管理セシムルコトヲ得ヘシ此管理人ハ實際申立人ヲシテ指名セシムルモノナラン 債務者ガ管理人ニ其不動産ヲ引渡スコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ 最初ノ競賣ノ爲メニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ 競落人ガ再競賣期日ヲ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒ

○不動産ニ對スル強制執行

タルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價ガ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

〔解義〕本條ハ競落人ニ於テ競買代金ノ拂入レヲ爲サス之カ爲メニ競落ノ取消ヲ命スヘキコト及ヒ之ヲ取消シタルヨリ以後ノ手續ヲ示定セリ

競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ其競落ヲ取消シ更ニ職權ヲ以テ再競賣ヲ命スルモノトス此ニ其義務ヲ完全ニ履行セサル云々トアリ故ニ代金ノ内拂チ爲シ其幾部ノ殘レルトキモ之ヲ再競賣ニ付スルモノト知ル可シ

再競賣ヲ爲スニ付テハ前競賣ノ爲メニ定メタル最低價額其他賣却條件ヲ其儘襲用スルモノトス而シテ再競賣期日ハ少ナクモ支拂期日ヨリ十四日ノ後タラサル可ラス

法律ハ右ノ如ク規定シテトモ之ヲ再競賣ニ付スルハ己ヲ得サルニ出ツルモノナルヲ以テ競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂フトキハ再競賣ノ手續ヲ取消スコトヲセリ手續ト費用トヲ省略スルニ於テ適當ナル法制ト謂フ可シ此ニ手續ノ費用トナル再競賣手續ノ爲メ要シタル費用ヲ謂フナリ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ代金及ヒ費用ヲ支拂ハサルトキハ二箇ノ制裁アルモ

ノトス第一再競賣ニ加ハルヲ得サルコト第二再度ノ競賣代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ其不足額及ヒ再競賣費用ヲ負擔スルコト是レナリ而シテ競賣ニ加ハラシメサルハ初メ代金ヲ拂ハサル位ノモノナレハ再度競賣ニ加ハラシムルトモ徒ニ競賣ノ目的ヲ妨クルノミノ推定ニ出ツ又不足額ヲ負擔セシムルハ競落人カ代金ヲ支拂ハサリシ爲メ得ヘキ利益ヲ失フタル損害賠償ヲ爲サシムルノ旨趣ニ出ツ次ニ費用ハ競落人ノ違約ヨリ生スル出費ナルヲ以テ其責ニ任セシムルハ固ヨリ當然ノコトナリトス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

〔解義〕本條ハ共有物持分ヲ競賣ニ付スル場合ヲ示定セリ

共有物持分モ財産ニ相違アラサルヲ以テ競賣ノ目的トスルコトヲ得ルハ勿論ナリ債權者ヨリ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立ヲ爲ストキハ裁判所ハ其持分ニ付キ競賣ノ申立テアリタルコトヲ登記簿ニ通知シテ登記簿ニ記入セシムルモノトス尙キ持分ニ付キ競賣ヲ爲ストキハ他ノ共有者ニ至大ノ影響ヲ及ホスヲ以テ右競賣ノ申立アリタルコトヲ他

○不動産ニ對スル強制執行

八百十二

ノ共有者ニ通知セサル可ラス
共有物持分ノ最低競賣價額ヲ定ムルニハ共有物全部ニ付キ評價ヲ爲シ其割合ヲ以テ持分ノ價額ヲ算出スルモノトス

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

〔解義〕 本條ハ競賣申立カ競落ヲ許スコトナクシテ完結シタル場合ニ於ケル手續ヲ示定セ

競賣申立カ競落ヲ許スコトナクシテ完結シタルトキ即チ第六百七十四條ニ從ヒ絶對ニ競落ヲ許ササル決定ヲ爲シタルトキハ第六百五十一條ニ從ヒ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス

債權者カ競賣申立ヲ取下ケ又ハ拋棄シタルトキモ亦本條ノ規定ニ從フヘキモノナラン

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其

他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合

ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

○不動産ニ對スル強制執行

八百十三

最高競買價額ノ保證ニ爲シ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニアラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限りハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算スヘキ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

- 第一 競落人ノ所有權ノ登記
- 第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消
- 第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

〔解説〕〔理由〕〔的例〕第六百九十一條乃至第七百條ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ配當手續ヲ示定セリ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定シタルトキ債權者一人ナルカ其賣却代金各債權者ヲ満足セシムルニ足ルトキハ容易ニ其手續終了スルト雖トモ債權者數人アリテ且賣却代金各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルハ各債權者ニ配當ヲ爲ササル可ラス而シテ之レハ配當方法ハ民法商法及ヒ特別法ニ從ヒ優先權アル者ニハ全部ヲ充當シ其餘分アルトキハ之ヲ通常債權者ニ配當ス可キモノトス此ニ所謂特別法トハ租稅其他ノ國稅ニ優先權アルコトヲ規定セル國稅滯納處分法ノ如キヲ指稱スルナリ

第六百九十二條 本條ハ第六百二十七條及第六百二十八條ト大同小異ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

第六百九十三條 第六百七十七條第一項ニ因リテ爲シタル競落許可ノ決定カ確定シタルトキ即チ即時抗告ノ七日ノ期間ヲ經過シタルトキハ代金ノ支拂及ヒ配當ヲナス爲メ裁判所ハ職權ヲ以テ之カ期日ヲ定メ尙ホ利害關係人執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出スモノトス

第六百九十四條 前條ノ期日ニハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金幾許ナルヤヲ定メツル可ラヌ法律ハ左ニ掲クルモノヲ以テ賣却代金トセリ

第一 競落代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落期日ヨリ代金支拂期日ニ至ルマテノ法律上ノ利息

競落人ハ第六百八十六條ニ從ヒ競落許可ノ決定ニ因リ不動産ヲ取得スルヲ以テ其以後不動産ヨリ生スル利益ハ悉ク己ノ所得ニ歸ス可キナリ左レハ賣却法ノ原則ニ因ルモ買取物件ヨリ利益ヲ生スル場合ニ於テ其代金ヲ賣却後ニ支拂フトキハ買主ハ其利益ノ報酬トシテ結約後ノ利息ヲ支拂ハサル可ラス右第二ノ旨趣モ畢竟此原則ヨリ出テタルモノニシテ適當ノ法制ト謂フ可キナリ此ニ不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合トハ例ニハ借家ノ如キ鐵山ノ如キ養魚池ノ如キ間斷ナク利益ヲ生スル場合ヲ謂フナリ

競落人ハ代金ヲ裁判所ニ提供シ裁判所之ヲ配當ス若シ最高價競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額アルトキハ之ヲ代金ニ算入ス

第六百九十五條 第六百九十六條 第六百九十七條 前條ニ從ヒ賣却代金ヲ定メタルトキハ裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス此配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元利金、費用及ヒ民法商法特別法ニ定メタル配當ノ順位並ニ割合ヲ記載ス若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラズシテ配當ヲ要求スル債權者一致スルトキハ其一致ニ基

○不動産ニ對スル強制執行

○不動産ニ對スル強制執行

キ配當表ヲ作ルモノトス而シテ配當表ノ作り方ニ付テハ別段ノ定メアラサルヲ以テ適宜ニ作りテ可ナリト雖トモ成ル可ク分り易ク後日ニ至リ一目瞭然タル如クニ作ラサル可ラズ

配當ニ付テハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ニ於ケル異議ノ完結及ヒ其配當ノ實施ニ付テハ以下數條ニ於テ別段規定ヲ設ケタルモノ、外第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス

第六百九十八條 配當期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權其物ニ對シテ異議アルトキ即チ債權額ノ多少ヲ爭ヒ配當ノ割合ニ付キ異議アルトキ又ハ債權ノ爲メ主張スル順位ニ付キ異議アルトキ即先取權ノ有無前後ヲ爭フトキハ之ヲ申立ツルノ權利アリ若シ其債權ニシテ執行ヲ爲シ得ヘキモノナルトキ即チ執行力アル正本ニ因ル債權ナルトキハ第五百四十五條第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ其異議ヲ完結スヘキモノトセリ

各債權者モ亦前同一ノ異議アルトキハ之ヲ申立ツルノ權利アリト雖トモ債務者カ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキ場合ト其間多少ノ差異アリ即チ各債權者カ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルハ特リ自己ノ利害ニ關係ヲ及ホササルニ限リ之ヲ申立ツルモ申立テサルモ自己ノ利害ニ毫モ影響ヲ及ホササルニ如キハ決シテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ許サズ

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ依リ不動産上ノ負擔ヲ引受クルハ勿論關係債權者

ノ承諾アルトキハ買入代金ノ額ヲ限リトナシ債務者ノ債務ヲ己レニ引受ケ以テ代金ノ支拂ヒニ換ユルコトヲ得此時ハ債務者ノ更改ヲ爲シタルモノニシテ前債務者ハ全部又ハ一部ノ債務ヲ免レ競落人ハ代金ノ支拂ヒヲ爲シタルト同一ノ効果ヲ生スルモノトス又債權者カ競落人トナルトキハ其配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツルマテテ限リ例ニハ配當額千圓ニシテ買入代金千五百圓ナルトキハ千圓マテテ限リ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス此時ハ債務者カ競落人ニ對スル債務ノ全部又ハ一部ト買入代金ニ付キ競落人カ債務者ニ對スル債務ト相殺スルモノトス然レトモ第一ノ場合ニ於ケル更改ニ因リ引受クヘキ債務、又ハ第二ノ場合ニ於ケル計算上相殺スヘキ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ現實代金ヲ支拂フカ又ハ保證ヲ立テテ此更改若クハ相殺ヲ爲スヘキモノトス

第七百條 配當ヲ結了シタル後裁判所ハ強制執行ノ完結及ヒ所有權ノ移轉ヲ知ラシムル爲メ前ニ作りタル配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シ左ノ諸件ヲ囑託ス

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

賣却條件ニ於テ競落人不動産上ノ負擔ヲ引受クルトキハ其負擔ノ記入ハ依然之ヲ留保セサル可ラスト雖トモ若シ然ラサルトキハ配當實施ト共ニ其負擔ヲ免カル可キヲ以テ當然其記入ノ抹消ヲ爲スヘキモノトス

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

○不動産ニ對スル強制執行

○不動産ニ對テル強制執行

八百二十

右登記及ヒ抹消ハ競落人ノ利益ノ爲メニ爲スモノナルヲ以テ其レヨリ生スル費用ハ競落人ノ負擔ニ歸スヘキモノトス

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

〔解義〕 本條ハ數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニモ前同様ノ手續ヲ準用ス可キコトヲ示定セルマテニシテ別ニ解釋ヲ要セス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

〔解義〕 第七百二條乃至第七百五條ハ競賣ニ換ヘ入札拂ヲ以テ強制競賣ヲ實施スル手續ヲ示定セリ

第七百二條 不動産ヲ公賣スルコトハ一般競賣ニ因ルヲ以テ原則トスルト雖モ場合ニ依リテハ競賣ヨリモ寧ロ入札拂ヲ以テ便利トスルコトアリ殊ニ從來ノ手續ニ於テ入札拂ヲ用ユルノ慣例アリシヲ以テ法律ハ一ノ便宜法ヲ設クルコトトセリ即チ裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得ヘシ而シテ入札拂ノ手續ニ付テハ以下數條ニ定ムルモノハ外競賣手續ニ付キテノ規定ヲ適用スルモノトス

○不動産ニ對スル強制執行

八百二十一

○不動産ニ對スル強制執行

第七百三條 本條ハ一讀明瞭ナルテ以テ別ニ解釋ヲ要セス只注意ス可キハ期日ニ於テトアルコト之ナリ若シ期日前入札ヲ差出シタルトキハ其効アラサルモノトス別ニ明文アラサルモ第七百四條ニ入札ヲ開封シトアルニ因テ考フルモ入札ハ封緘シテ之ヲ差出スモノナルハ明カナリ

第七百四條 本條第一項及ヒ第二項ハ法文明瞭ニシテ別ニ解釋ヲ要ス可キモノナシ第三項ニ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札トアルハ例エハ最高入札人ヨリ五圓高ク入札ストカ或ハ入札人誰某ヨリ何圓高ク入札スト云フノ類之レナリ

第七百五條 本條ハ法文明瞭ニシテ別ニ解釋ヲ要セス

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明ズル證書ヲ以テ足ル

〔解義〕〔理由〕 本條ハ競賣手續ニ付テハ規定ニシテ本款強制管理ニ適用ス可キ條項ヲ示

定セリ

強制管理ハ第六百四十條ニ定ムル如ク不動産ニ對スル強制執行ノ一方法ナリ而シテ強制競賣ハ不動産ヲ賣却シ其代金ヲ以テ債務ノ辨濟ニ充ツルモノニシテ強制管理ハ管理人ヲシテ其不動産ヲ管理セシメ其レヨリ生スル收益ヲ以テ債務ノ辨濟ニ充ツルモノナリ故ニ二者ノ間互ニ異ナル所アリト雖トモ不動産ノ上ニ強制ヲ施シ所有者ヲシテ隨意ニ處分スルコトヲ得セシメサルニ至テハ二者同一ナルヲ以テ強制競賣ニ關スル規定ニシテ強制管理ニ適用シ得ヘキモノ少シトセス本條ハ即チ強制競賣ニ關スル規定ノ中第六百四十二條第六百四十三條第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ストモ然レトモ不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負エルトキ即チ質入抵當其他ノ義務ヲ負エル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號ノ登記判事ノ認證書第二號ノ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書ニ換ヘ單ニ債務者カ不動産ヲ占有スルコトノ疏明證書ヲ提出スルヲ以テ足ル蓋シ強制管理ハ強制競賣ト異ナリ不動産ヲ處分スルニアラサルヲ以テ假令誤テ債務者ノ所有ニアラサルモノヲ處置スルモ甚シキ弊害ヲ生セサルモノト爲セシモノナラン

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ビ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産カ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管

○不動産ニ對スル強制執行

理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ
既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實
ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達
ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

〔解義〕〔的例〕本條ハ強制管理ノ開始決定ニ具備ス可キ事項及ヒ其管理ニ可キ不動産ノ
收益ノ範圍ヲ示定セリ

強制管理開始ノ決定ニ付テハ第六百四十四條第一項ニ從ヒ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フ
ルコトヲ宣言スルハ勿論強制管理其物ノ性質ヨリシテ左ノ事項ヲ掲グルモノトス

第一 債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁
止ス

第二 不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人
ニ爲ス可キコトヲ命ス收益ノ給付ヲ爲ス第三者トハ例エハ賃貸契約ニ因リ土地家屋等ヲ
借受ケ其借料ノ支拂ヲ不動産ノ所有者タル債務者ニ爲ス如キ是レナリ

法律ハ收益ノ範圍ヲ定メ既ニ收穫シテ未タ債務者ノ所有ヲ離レサル天然ノ
果實ヲ云フ若クハ收穫ス可ク是レヨリ收穫ス可キ果實ヲ云フ又ハ期限ノ到來シ(辨

辨期限ノ到來シタル法定ノ果實ヲ云フ)若クハ到來ス可キ果實期限ノ將ニ來ラントスル
法定ノ果實ヲ云フ)ハ悉ク收益ニ屬ストセリ故ニ是等ノ收益ハ合セテ管理人ノ管理ニ歸
ス可キモノトス

開始決定ハ第六百四十四條第三項ニ從ヒ債務者ニ送達スルハ勿論不動産ノ收益ノ給付ヲ
爲ス可キ第三者アルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ送達シ第三者ニ對スル強制管理ハ此
時ヨリ始メテ効力ヲ生スルモノトス

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制
管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添付スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始
シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生
ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居
ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス
可シ

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

〔解義〕 第七百八條ハ(第六百四十五條)ト第七百九條ハ(第六百四十六條)ト第七百十條ハ(第六百四十七條第一項)ト同意義ニシテ其精神モ亦同一ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債權者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フヘキ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ

其職ヲ免スルコトヲ得

〔解義〕 第七百十一條ハ管理人ノ任命及ヒ管理人ノ權限ヲ示定シ第七百十二條ハ裁判所カ

管理人ヲ指揮監督スルコトヲ示定セリ

第七百十一條 強制管理ノ開始決定ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ管理人ヲ任命ス然レトモ債權者ハ自己ノ適當トスル人ヲ推舉シテ其任命ヲ求ムルコトヲ得ヘシ實

際ニ至リテハ債權者ヲシテ其人ヲ指名セシムルモノヲシテ何トナレハ裁判所ニ於テハ果シテ何人カ管理人ニ適當ナルヤ之ヲ知リ難クハナリ又管理人ニシテ初メヨリ其任命ヲ

拒ムトキハ如何ノ制裁ヲ加フ可キヤノ疑ヒナキ能ハスト雖トモ法ニ明文ナキ以上ハ如何トモスルコト能ハス更ニ他ノ者ニ任命スルノ外ナカル可シ

管理人ハ其管理及ヒ收益ノ處分ヲ全フスルカ爲メ身自ラ不動産ヲ占有スル權アリ此場合ニ於テ債務者其他ノ者ヨリ占有ヲ妨ケント試ムルトキハ執達吏ヲシテ之ニ立會ハシメ其抵抗ヲ除去スルコトヲ得ヘシ

若シ第三者ヨリ收益ノ給付ヲ受クヘキ場合ニ於テハ裁判所カ管理人ヲ任命スルニ當リテ其收益ヲ取立ツルノ權ヲ授與スヘキモノトス

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後管理人ノ管理上ノ事項ニ付キ諸般ノ指揮ヲ爲シ且管理人ノ業務施行上ノ監督ヲ爲シ及ヒ管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ム可シ又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ任命シテ之ニ立會ハシムルコトヲ得ヘシ

○不動産ニ對スル強制執行

○不動産ニ對スル強制執行

又執行裁判所ハ管理人ヲシテ保證ヲ立テシメ又其過失懈怠等アル場合ニ於テハ二十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得ヘシ

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

〔解説〕 本條ハ第三者カ強制管理ヲ許セル不動産ニ付キ所有權ヲ主張スルカ其他管理ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ之ヲ主張ス可キコトヲ示定セシメテニシテ第五百四十九條ヲ參看セハ其他ノ手續ニ至ルマテ之ヲ詳悉スルコトヲ得ヘシ

第七百十四條 管理人ハ直ニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

〔解説〕 本條ハ管理セル不動産ヨリ生ズル收益ハ如何ニ之ヲ處置ス可キヤヲ示定セリ

管理人ハ其管理ニ因リテ不動産ヨリ收益ヲ得タルトキハ左ノ順序ニ從テ其收益ヲ處分ス可シ

第一 該不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シ而シテ之ヲ納付スルノ手續ヲ爲ス可シ

第二 第一ノ租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後管理ニ付キ生シタル費用ヲ取立ツ可シ

第三 第二ノ金額ヲ取立テタル後其殘餘ノ額ヲ債權者ニ支拂フ可シ而シテ債權者數人アリテ其請求額ニ充實スル能ハサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調フトキハ則チ之ニ從テ支拂ヒヲ爲ス可ク若シ協議ノ調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可キナリ

右協議調ハサル旨ノ届出アリタルトキハ配當裁判所ハ直ニ配當期日ヲ定メテ強制競賣ニ於ケル配當方法ト同シク收益ノ金額、各債權者ノ債權ノ元利金、訴訟費用、執行費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載シタル配當表ヲ作り民法、商法、特別法ノ定ムル所ニ從ヒ配當ヲ爲ス可シ而シテ期日ニ出頭シタル債權者債權者ノ配當表ニ對スル異議ノ申立ニ付テハ第六百九十八條ノ規定ヲ取捨適用ス

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ
各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行

○不動産ニ對スル強制執行

○不動産ニ對スル強制執行

裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スユトテ得

右期間内ニ異議ノ申立ヲキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

〔解義〕第七百十五條ハ管理人カ管理ノ任務ヲ盡シ終リテ其任務ヲ卸スニ至ルハ如何ナル場合ナルガ示定シ第七百十六條ハ強制管理ノ取消ニ關スルコトヲ示定セリ

第七百十五條 第七百十六條 管理人ハ其管理ノ終了ニ至レハ收益ニ關スル悉皆ノ計算書即チ收益ノ金額、租税其他ノ公課管理ノ費用及債權者ニ支拂フ可キ右殘餘ノ金額等悉皆ノ計算書ヲ作り之ヲ債權者及ヒ債權者ニ送達シ且執行裁判所ニ差出ス可シ若シ又管理カ數年ニ亘ルトキハ年一回又ハ二回等豫メ定ムル月日ニ於テ是等ノ計算書ヲ作り同シク之ヲ債權者及ヒ債權者ニ送達シ且裁判所ニ差出ス可キナリ

右計算書ノ送達ヲ受ケタル債權者及ヒ債權者ハ其計算ニ對シ異議アルトキハ其送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得異議ノ申立アリタルトキハ執行裁判所ハ書面又ハ口頭ヲ以テ管理人ヲ審訊シテ異議ノ決定ヲ爲ス可キモノトス之ニ反シテ右送達後七日ノ期間ヲ經過スルモ債權者若クハ債務者カ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ法律ハ其計算ニ付キ全ク異議ナキモノト看做ス殊ニ管理ノ終リニ於テスル計算書ナルトキハ債權者及ヒ債務者ハ共ニ管理人カ管理ノ任ヲ卸スコトヲ承諾シタルモノト看做ス此場合ニ於テハ執行裁判所ハ直ニ管理人ヲシテ其任ヲ卸サシム可キナリ

強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス而シテ管理人ノ計算ニ依リ收益金ヲ以テ債權者ノ請求額ヲ辨濟シ了リタルトキハ執行裁判所ハ何時タリトモ職權ヲ以テ此取消ヲ宣言ス其他強制管理ノ實施中特ニ費用ヲ要スル場合ニ於テ債權者カ其費用額ヲ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ宣言スルヲ當然トス凡テ強制管理ノ取消ヲ宣言シタルトキハ執行裁判所ハ登記簿ヲ主管スル登記判事ニ囑託シテ強制管理ニ關スル記

○不動産ニ對スル強制執行

入ヲ抹消セシキナリ

第二節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス
端舟其他構權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セズ

〔解義〕 本條ハ船舶ニ對スル強制執行ハ如何ニシテ之ヲ爲ス可キヤヲ示定セリ

船舶ハ常ニ轉動シテ其用ヲ爲スモノナルヲ以テ其性質ニ於テハ固ヨリ動産タルコト言フ
竣クスト雖トモ各箇ニ名稱ヲ附シ且船籍簿及ヒ登記簿ニ之ヲ登録スル等反テ不動産ニ類
スルモノ多シ故ニ法律ハ之ニ對スル執行處分モ不動産ニ關スル規定ヲ適用スルコト、爲
セリ然レトモ船舶ハ常ニ浮ミテ水上ニ在ルヲ以テ固ヨリ不動産ト其性質ヲ異ニセリ其性
質異ナルカ故ニ自ラ競賣手續ニ幾分ノ差異ヲ生セサル可ラス加之ノミナラス法律ハ以下
數條ニ於テ船舶ニ特別ナル規定ヲ設ケリ故ニ事物ノ性質ニ因リ差異ノ顯ハルルモノ又以下
數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケルモノハ固ヨリ之ニ從ヒ其餘ハ悉ク不動産ニ關スル執行
規則ヲ適用ス可キナリ

船舶ニハ或ハ權ヲ以テ小灣ヲ往來スルモノアリ或ハ橫ヲ以テ河水ヲ遮ルモノアリ或ハ八
尺ノ竿常ニ其船ヲ左右スルモノアリ小ハ沼澤ニ通船ヨリ大ハ大洋ノ往復スル汽船アリテ
其狀千差万別ナルヲ以テ法律ハ豫メ之カ區域ヲ制限シ日本形船舶西洋形船舶トナシ問ハス蒸
氣若クハ風帆ヲ以テ進退往來スル所ノ船舶ハ之ヲ商船其他ノ海船トナシ不動産ニ對スル
強制執行ノ規定ヲ適用シ其構權ノミヲ以テ運轉シ又主トシテ構權ノミヲ以テ運轉スル舟
ハ普通ノ動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ從フコトトセリ

本法ニ於テハ期クノ如ク區別ヲ爲セリト雖トモ登記法ニ依ルトキハ端舟其他構權ノミヲ
以テ運轉スル舟ト雖トモ他ノ大船ト同シク登記スルコトト爲セルヲ以テ之ニ對スル強制
執行モ現今ニ於テハ未タ全ク普通ノ動産物ト同一ノ取扱ヲ爲ス可ラス何トナレハ執達吏
ニ於テ直ニ之ヲ差押ヘ公賣ニ付スルモ若シ登記簿上他ニ買入或ハ抵當トナルトキハ忽
チ之ヲ障礙ヲ生ス可ケレハナリ故ニ現今ニテハ執達吏ハ或ハ差押ノコトヲ登記簿ニ記入
セシメ或ハ登記簿ノ謄本ヲ取寄セ之ヲ一閱スル等便宜ノ方法ニ因リ成ル可ク差押ヲシテ
効ヲ生シタルコトヲ注意セサル可ラス

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ
區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

〔解義〕 本條ハ船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管
轄執行裁判所ト爲ス可キナリト示定セシメテ別ニ解釋ヲ要セス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

〔解義〕〔理由〕 本條ハ船舶ノ差押ヲ爲ス際又ハ差押ヲ爲シタル後ニ於テ恪守ス可キ事項ヲ示定セリ

動産不動産ノ差押ハ其物件ヲシテ他ニ移轉セシメサルヲ以テ第一ノ効果トナスカ故ニ船舶モ又之ヲ他ニ運轉セシメサルコトヲ計ラサル可ラス即チ本條ハ船舶ノ競賣手續ノ開始決定ヲ爲スト同時ニ其差押中其船舶ヲ差押ノ港ニ碇泊セシム可キコトヲ命ス可シトセリ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當ト認ムルトキハ其利益ハ乃チ利害關係人ニ屬スルヲ以テ利害關係人ノ申立アルトキハ特ニ航行ヲ許スコトヲ得ヘシ

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ノ登記簿ニ各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求テテシコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

〔解義〕〔的例〕 本條ハ強制競賣ノ申立ニ添付ス可キ證書ノコトヲ示定セリ

本條ハ法文明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セスト雖トモ第一號中又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明云々トアルニ付キ一言セサル可カラス抑債務者カ船舶ノ所有者ナルトキハ其債務ノ如何ナルヲ問ハス其所有船舶ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖トモ債務者カ船長ナル場合ニ於テハ其債務ハ必ズ船舶ノ債務ナラサル可ラス即チ船長カ航海中船舶ノ必要ナル修繕ヲ爲ス等ノ爲メ其船長ノ名義ヲ以テ借入ヲ爲シタルトキ(商法第八百七十二條)又ハ航海中乗込人ノ食料ニ空乏ヲ告ケシ爲メ船長ノ資格ヲ以テ其船内ノ積荷ヲ處分シタルニ因リ荷主ニ對シテ賠償ノ責ニ任スヘキトキ(商法第八百七十一條)其他船長ノ過失ヨリ生シタル損害賠償ヲ爲スル等(商法第八百四十九條)第一及ヒ第二ノ債務ナラサル可ラス若シ船長ノ私債ナリトセンカ決シテ船舶ニ對シ強制競賣ヲ爲ス可ラサルナリ

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタル時ハ開始決定ノ送達前ト雖トモ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者並必要ナル金額ヲ豫納セザレトキハ
裁判所ハ之ヲ取消ス可ト得

〔解義〕〔前例〕本條ハ船舶ノ差押ニ付キ特別ノ處分ヲ爲ス可キ場合ヲ示定セリ
裁判所ハ債權者ヨリ船舶ヲ監守シ若クハ保存スルノ處分アリキ旨ヲ申立ツルトキハ競
賣手續開始決定前ナルト否トヲ問ハス之カ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム
可キナリ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分トハ或ハ出帆ヲ爲ササラシメシカ爲メ
ニ監守人ヲ置クカ如キ或ハ港内安全ノ所ニ碇泊ヲ命スルカ如キ所分ヲ爲スヲ云フナリ
此命令カ競賣開始決定ノ送達前ニ在ルトキハ其處分ノ着手ヲ以テ差押ノ効力ヲ生スルモ
ノトヲ然リ而シテ此處分ヲ爲スニ付キ別段ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ申立ヲ爲ス債權
者ハ其費用ヲ豫納セサル可ラス此費用ヲ豫納セザルトキハ執行裁判所ハ此處分ヲ命ス可
ラス又已ニ此處分ヲ命シタル後尙ホ續行ノ爲メ支出ス可キ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲ
シテ之ヲ豫納セシム可シ若シ之ヲ豫納セザルトキハ執行裁判所ハ此處分ヲ取消ス可キモ
シトス然レトモ此取消ハ當然開始決定ニ影響ヲ及ボサス

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶
ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ効力アリ此場合ニ於テ
ハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若シハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長トナリタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前
船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

〔解義〕本條ハ船舶差押後ノ効力ヲ示定セリ

第七百二十條ニ於テ記述スル如ク船長ニ對シテ船舶ヲ差押フルハ常ニ船舶其物ノ債務ヲ
負ユル場合ニシテ決シテ船長ノ私債ニ非ラサルヲ以テ船舶ニ對スル強制競賣ノ開始決定
ヲ爲シタルトキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ當然効力ヲ有スルモノニシテ此場合ニ於テ
ハ所有者モ亦法律上利害關係人ト爲ル而シテ差押後所有者若クハ船長ニ變更アルモ現所
有者若クハ現船長ヲ以テ利害關係人トナシ前競賣手續ヲ續行ス可キナリ此場合ニ於テハ
前船長ハ假令ヒ其所爲ヨリ生シタル債務ト雖トモ全ク關係人タル債務ヲ免カルモノトス

第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯
ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

〔解義〕本條ハ競賣手續ヲ取消ス可キ一ケノ場合ヲ示定セリ

第七百十八條ニ於テ見タル如ク船舶ニ對スル強制執行ハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ
區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トナスカ故ニ後ニ至リ船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内
ニ存セザルコトヲ知リタルトキハ則チ其裁判所ハ非管轄裁判所ナルヲ以テ已ニ發シタル

○船舶ニ對スル強制執行

八百三十八

開始決定ヲ取消ス可キナリ尙ホ本條ニ明文アラサルモ競賣手續開始決定前此事ヲ知リタルトキハ當然開始決定ヲ爲ス可ラサルモノトス

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條 定緊港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定緊港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

〔解義〕 本條ハ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定緊港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添付ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ
差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一

ノ效力ヲ生ズ

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

〔解義〕 第七百二十六條乃至第七百二十八條ハ船舶ノ股分ニ對スル強制執行ノコトヲ示定ス

第七百二十六條 船舶ノ股分即チ船舶カ敷人ニ屬スル場合ニ於テ其各人ノ有スル持分ニ對シ強制執行ヲ爲スニハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト見做ス又裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理及ヒ讓渡ヲ命スルコトヲ得ヘシ而シテ如何ニシテ執行スヘキヤハ之ヲ第五百九十四條以下ノ規定ニ照ラシテ知テスルコトヲ得ヘシ又其執行ニ付テハ第六百十八條ト異ナリ

定緊港ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲ス可キナリ
第七百二十七條 第七百二十八條 本條ハ共ニ法文明瞭ニシテ別ニ解釋ヲ要セスト雖

モ第七百二十七條ニ在ル船舶管理人トシテ股分ノ所有者等ニ代テ航海ノ一切ノ業務ヲ代理スル者ニ商法第八百四十一條ニ謂フナリ
第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

〔解義〕 本條ハ外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ船舶其物ニ於テ已ニ登記ス可カラサルモノ又ハ登記セサルモノニ係ルヲ以テ之ヲ差押ヘタルトキモ從テ登記簿ニ記入ヲ要セサルコトヲ示定セシマテニシテ別ニ解釋ヲ要セズ

第三章

金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百二十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百二十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得 強制執行ノ目的物非テサル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可キ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

〔解義〕 〔理由〕 〔的例〕 第七百三十條乃至第七百三十二條ハ金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ノ中特定物若クハ代替物ノ引渡ヲ目的トスル強制執行ノ方法ヲ示定セリ

第七百三十條 第七百三十一條 第七百三十二條 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權トハ金錢以外ノ物即チ或ル物件ノ引渡ヲ求ムルカ如キ又ハ或ル行爲若クハ不行爲ヲ目的トスルカ如キヲ謂フナリ故ニ本章ニハ第一特定物若クハ代替物ノ引渡ヲ目的トスル強制執行

第三債務者ノ行爲不行爲ヲ目的トスル強制執行ヲ包含ス

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

八百四十二

第一特定物若クハ代替物ノ引渡ヲ目的トスル強制執行ハ第七百三十條乃至第七百三十二條ニ規定セリ特定物トハ某ノ机ト云ヒ某ノ家ト云フカ如キ其物ヲ特定シテ他ノ物ヲ以テ之ニ替ヘテ辨濟スルヲ得サルモノヲ云ヒ代替物トハ米幾俵酒何石ト云フカ如ク何レノ米何レノ酒ヲ以テモ亦辨濟スルヲ得ルカ如キ物ヲ云フ

債務者カ特定ノ動産物ヲ引渡ス可キトキ又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執行ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ直ニ之ヲ債務者ヨリ取上ケ其委任ヲ爲シタル債權者ニ引渡ス可シ

又債務者カ特定ノ地所若クハ家屋ヲ引渡シ或ハ明渡ス可キトキ又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ或ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債權者ノ耕作ヲ除去セシメ或ハ債務者ヲ立退カスル等渾テ債務者ノ占有ヲ解放シテ其占有ヲ得セシム可シ然レトモ此執行ハ必ス債權者若クハ其代理人カ受取ノ爲メ現場ニ出頭スルコトヲ要ス若シ是等ノ者出頭セサルトキハ執達吏ハ此執行ヲ實施ス可ラス

此引渡若クハ明渡ノ處分ヲ爲スニ際シ強制執行ノ目的物ニ非ラサル動産アルトキハ之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ例ニハ家屋ノ明渡ヲ爲ス場合ニ於テ其家屋内ニ在ル所ノ火鉢煙草盆等ノ如キ家屋ニ附屬セサル動産物ハ執行ノ目的物ニ非ラサルヲ以テ之ヲ債務者ニ引渡ス可キナリ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人ニ引渡シ若シ代理人ナキトキハ其成長シタル家族若クハ雇人ニ引渡ス可シ若シ此等ノ者不在ナルトキハ執達吏ハ債務者ノ

費用ヲ以テ之ヲ保管スルノ方法ヲ實施ス可シ而シテ債務者之カ引渡ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ求メ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却スルコトヲ得可シ而シテ此賣却シタル代金ハ保管及ヒ賣却ニ付テノ費用ヲ扣除シテ其殘餘額ヲ供託ス可キモノトス

債務者ヨリ債權者ニ引渡ス物カ現ニ第三者ノ手中ニ存在スルトキハ債權者ハ直ニ執達吏ニ委任シテ執行ヲ爲サシム可ラス何トナレハ債務者ニ對シテ執行力アル正本ハ之ニ關係ナキ第三者ニ對シテ執行ヲ爲ス可ラサルヲ以テナリ故ニ此場合ニ於テハ債權者ハ債務者カ第三者ニ對シテ有スル所ノ請求權ノ轉付アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ此申立アリタルトキハ執行裁判所ハ其請求權轉付ノ命令ヲ爲ス可シ此命令ハ債務者ニ對シテハ其請求權ノ賣買贈與等ノ處分殊ニ之カ取立ヲ爲スヲ禁スル旨ヲ命シ之ヲ債務者及ヒ第三者ニ送達ス可キモノニシテ其第三者ニ送達スルニ因リ差押ノ効力ヲ生ス然リ而シテ此請求權轉付ノ申立ヲ爲シタル債權者ハ新ニ第三者ニ向テ之カ引渡ヲ求メ第三者若シ之ニ應セサルトキハ當然通常ノ手續ニ依リ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

〔參照〕 獨 第七百六十九條 負債者動物件ヲ呈出シ又ハ一定ノ動物件ノ數量ヲ呈出スヘキトキハ裁判所使吏其物件ヲ負債者ヨリ取上ケテ債主ニ交付スヘキモノトス
呈出スヘキ物件ノ現在セサルトキ負債者ハ債主ノ申立ニ依リ左ノ明告宣誓ヲナスノ義務アルモノトス

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

八百四十三

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

八百四十四

負債者ハ物件ヲ現有セス亦物件ノ所在ヲ知了セス裁判所ハ事件ノ現状ニ應シ其宣誓式ノ變更ヲ議決スルコトヲ得

獨 第七百七十條 負債者換用物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ヲ供給スヘキトキハ亦第七百六十九條第一項ノ規定ヲ適用スルモノトス

獨 第七百七十一條 負債者不動物件又ハ居住ニ供シタル船舶ヲ呈出シ又ハ放讓シ又ハ明渡スヘキハ裁判所使吏負債者ヲ其現有ヨリ引放シ債主ニ現有セシム可キモノトス
權制執行ノ物件ニ屬セサル動物件ハ裁判所使吏之ヲ取除キテ負債者ニ交付シ又ハ其處分ニ任カシ負債者不在ナルトキハ其代人又ハ負債者ノ家族ニ屬スル成丁者又ハ其家族ノ雇使スル成丁者ニ交付シ又ハ其處分ニ任カスモノトス

負債者及ヒ前項ニ記シタル人ノ一名現在セサルトキハ裁判所使吏負債者ノ費用ヲ以テ其物件ヲ買取物儲藏所ニ入置シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ保管ス可キモノトス

負債者其還付ノ請求ヲ遲延スルトキ執行裁判所ハ其物件ヲ賣却シテ其賣得金ヲ藏密スルコトヲ命ズルヲ得

獨 第七百七十二條 呈出スヘキ物件他人ノ保管中ニアルトキハ債主ノ申立ニ依リ金錢要求ノ買取ニ關スル規定ニ從ヒ物件呈出ニ付テノ負債ノ請求ヲ其債主ニ移付スヘキモノトス

第七百二十三條 債務者カ爲ス可キ行爲ヲ爲ササル場合ニ於テ第三者之

ヲ爲シ得ヘキモノナルハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法(財産編第三百八十二條第三項第四項)ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラシムコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

第七百二十四條 債務者カ其意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニシテ第三者之ヲ爲シ得ヘカラサルモノナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法(財産編第二百八十六條第二項)ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第七百二十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百二十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲スコキコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

八百四十五

認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

〔解義〕〔的例〕第七百三十三條乃至第七百三十六條ハ金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ノ中債務者ノ行爲不行爲ヲ目的トスル強制執行ノ方法ヲ示定セリ

第七百三十三條 債務者カ執行力アル正本ニ基キ爲ス可キ行爲ヲ爲ササルトキ即チ作爲ノ義務ヲ怠リテ爲ササルトキハ法律ハ債務者ヲシテ強テ之ヲ爲サシムルコトヲ許サス此場合ニ於テ其行爲爲第三者ニ於テ爲シ得ヘキモノナルトキハ債權者ハ第一審ノ受訴裁判所ニ向テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトノ申立ヲ爲スコトヲ得而シテ第一審ノ受訴裁判所ニ於テハ其申立ヲ調査シ請求ノ事項カ果シテ第三者ニ於テ爲シ得ヘキモノナルトキハ民法財産編第三百八十二條第三項ノ規定ニ從ヒ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムル可キ旨ノ決定ヲ爲シ職權ヲ以テ其決定ヲ債權者及ヒ債務者ニ送達ス可シ此決定ヲ得タル債權者ハ其決定ノ確定ヲ俟テ直ニ相當ノ第三者ヲシテ債務者ニ代リテ之ヲ爲サシムル其費用ヲ債務者ヨリ取立ツコトヲ得ヘシ又債權者ハ此申立ヲ爲スコト同時ニ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムル爲メ債務者ヲシテ先ツ其費用額ヲ支出セシムルノ決定アランコトヲ申立ツルコトヲ得ヘシ此申立ニハ豫メ金額ヲ定メ代務上幾干ノ費用ヲ要ス可キモノ見積ヲ立ツ可ク又裁判所ハ之ヲ調査シ爲シ相當ト思量スル金額ヲ以テ決定ヲ與フ可キモノナリ而シテ後債權者カ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルニ當リテ決定ヲ以テ支出セシムル費用額ニ不

足ヲ生シタルトキハ債權者ハ當然債務者ヨリ之ヲ取立ツルノ權ヲ有ス

又債務者カ爲スコカラサル行爲ヲ爲ストキ即チ不作爲ノ義務ニ背テ爲シタルトキハ債權者ハ前同シク第一審裁判所ニ第三者ヲシテ其爲シタル作爲ヲ毀壞セシムルコトノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ受訴裁判所ハ民法財産編第三百八十二條第四項ニ從ヒ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ヲシテ其爲シタル事業ヲ取毀タシメ又ハ債務者ヲシテ將來之ヲ爲サシムルルカ爲メ適當ノ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ決定ヲ以テ宣言ス可シ此場合ニ於テモ前同シク豫メ債務者ヲシテ費用ヲ支出セシムルノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク又同時ニ之カ決定ヲ爲スコキナリ

第七百三十四條 債務者カ執行力アル正本ニ基キ爲ス可キ行爲ニシテ第三者代テ之ヲ爲シ得ヘカラサルモノナルトキ即チ債務者ノ意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニシテ他人ニ代テ爲シ得ヘカラサルトキモ亦債務者ノ身体ヲ拘束シテ之ヲ爲サシムル可キモノニ非ラズ債權者強制シテ之ヲ履行セシメント欲セハ第一審ノ受訴裁判所ニ向テ之カ申立ヲ爲スコク第一審ノ受訴裁判所ハ民法財産編第三百八十六條第三項ニ從ヒ債務者ニ直接履行即チ債務者自ラ之ヲ盡スコキコト其之ヲ盡スハ何月何日マテト云エル極度ノ期限内ニ於テ之ヲ爲スコキコト若シ之ヲ爲ササルニ於テハ日毎又ハ月毎ニ若干ノ價金ヲ拂フ可キコトヲ言渡シ得ルコトト爲セリ例ニハ債務者ヲシテ家屋ヲ建築セシメ其他土木工事ヲ命スルカ如キハ第三者ヲシテ代テ之ヲ爲サシムルコトヲ得ヘント雖トモ有名ノ畫工ニ作畫ヲ命

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

八百四十八

スルカ如キ或ハ妙技ノ佛師ニ彫刻ヲ命ズルカ如キハ第三者即チ他人ヲシテ代テ之ヲ爲サシム可カラザルナリ故ニ此場合ニ於テハ亦素ヨリ債務者ノ身体ヲ拘束シテ作畫シ或ハ彫刻セシム可キモノニ非ラス必スヤ債權者ハ第一審裁判所ニ申立テ債務者ヲシテ爲ス可キ期間ヲ定メ其期間ヲ經過スルトキハ日毎ニ又ハ月毎ニ若干ノ償金ヲ拂ハシム可キコトノ決定ヲ求メ又或ハ全ク損害賠償ノ決定アラソコトヲ求ムルヲ得ヘシ此求メアリタルトキハ第一審裁判所ハ債務者ヲ審訊シタル後債權者ノ申立ニ基ツキ決定ヲ爲ス可キナリ

第七百三十五條 前二條ノ決定即チ民法財産編第三百八十二條第三項第四項ニ因リ第三者ヲシテ債務者ニ代テ之ヲ爲サシム可キ決定及ヒ民法財産編第三百八十六條第三項ニ因リ直接履行若クハ損害賠償ヲ命ズル決定ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ確定シタル債權ニ對スル執行ナルカ故ニ一般ノ執行方法ヨリ云フモ此ノ如クナラザル可ラサルコトナリ然レトモ決定前必ス債務者ヲ審訊ス可シトセリ即チ債務者ニ於テ此請求ニ對シ直チニ履行ヲ爲スヤ否ヤ或ハ債權者ヲシテ之ニ代リテ處理セシムルニ付キ相當ノ費用ヲ要スルコトヲ示シ又直接履行ノ場合ニ於テハ之ヲ履行セサルニ於テハ賠償ノ責ナルコトヲ示シ結局之ニ應ゼサルヤヲ確メ然レ後之カ決定ヲ爲ス可キモノトス

第七百三十六條 身体ノ行爲ヲ要セザル債權者ノ意思ノミニ屬スル行爲即チ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトニ係ル場合ニ於テハ例ニ

ハ某債務者ノ爲メ保證ノ義務ヲ認ムルヤ否ヤニ付爭論アリ其義務ヲ認ム可シトノ判決アリタルトキ又所有權ヲ確認セシムルコトニ付キ訴エアリタルモ其所有權ヲ確認ス可シトノ判決アリタルトキ其他法律上或事物ノ選擇ヲ債務者ニ許容シタル場合ニ於テ其一事物ヲ指定シ之ヲ選擇スルヤ否ヤノ意思ヲ陳述セシムルコトヲ求メ其陳述ヲ爲ス可シトノ判決アリタルモ又ハ書入質登記簿ニ登記シ若クハ登記ヲ取消スヘク承諾セシムルコトニ付キ爭アリテ承諾ス可シト判決シタル如キ場合ニ於テハ其判決ノ確定ト共ニ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做サル可キナリ若シ反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キトキ即チ債務者ハ其反對給付ヲ得タル後此認諾若シハ陳述ヲ爲ス可キ旨ヲ命ジタル判決ナルトキハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ初メテ認諾ヲ爲シ又ハ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス可キ効力ヲ生ス

〔參照〕 第七百七十三條

負債者他人ヲ以テナサシムルコトヲ得ル行爲ヲナスノ義務ヲ盡ササルトキ始審ノ訴訟裁判所ハ申立ニ依リ負債者ノ費用ヲ以テ其行爲ヲ爲サシムルノ權ヲ債主ニ與フヘキモノトス

債主ハ同時ニ其行爲ヲナスニ依リ生スヘキ費用ヲ豫メ負債者ニ辨償セシムルノ言渡アラソコトヲ申立ルヲ得但し其行爲ヲナスニ依リ之レヨリ大ナル費用ヲ生スルトキ後日其要求ヲサシムノ權ヲ妨ケラルコトナシ

物件ヲ呈出又ハ供給ヲナサシムル爲メノ權制執行ハ本條ノ規定ヲ適用セサルモノトス

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

八百四十九

○金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

八百五十

獨 第七百七十四條 他人ヲ以テ行爲ヲナシムルコトヲ得サル場合ニ於テ其行爲特ニ負債者ノ意ニ隨テナスコトヲ得ルモノナルトキハ申立ニ依リ始審ノ訴訟裁判所ハ負債者ニ對シ金額千五百「マルク」以下ノ罰金又ハ拘留ヲ以テ其行爲ヲナスヘキコトヲ言渡スコトヲ得

此規定ハ婚姻取結ヲ言渡ス場合ニハ之ヲ適用セズ婚姻上生活恢復ノ判決言渡ノ場合ニアリテハ各邦法律ニ於テ婚姻上生活ノ恢復ヲ強テ行ハシムルコトヲ許ストキニ限り之ヲ適用スルモノトス

獨 第七百七十五條 負債者行爲ヲナスヘカラサルノ義務又ハ行爲ヲ忍耐スヘキノ義務ニ背反スルトキ始審ノ訴訟裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ負債者ニ對シ其各背反ニ付キ千五百「マルク」以下ノ罰金又ハ六月以下ノ拘留ヲ言渡スヘキモノトス合刑ノ限度ハ二年ノ拘留ヲ超過スルコトヲ許サズ

其言渡前豫メ刑ノ嚴戒ヲナスヘシ其嚴戒ハ義務ヲ言渡ス判決書ニ掲ケサルトキハ申立ニ依リ始審ノ訴訟裁判所ニ於テ之ヲ言渡スモノトス
亦債務者ハ債主ノ申立ニ依リ其後背反ニ依テ生スル損害ニ付キ一定ノ時間保證ヲナスヘキコトヲ言渡サ受ルコトアルモノトス

獨 第七百七十六條 第七百七十三條ヨリ第七百七十五條マテニ從ヒ言渡スヘキ裁判ハ豫メ口頭上ノ審問ナクメ之ヲナスコトヲ得其裁判前負債者ハ尋問セラルヘキモノトス

獨 第七百七十八條 代價ヲ要求スル債主ノ權利ハ此章ノ規定ノ爲メ變更ヲ受クルコトナシ

債主ハ始審ノ訴訟裁判所ニ訴訟ヲ以テ代價ノ請求ヲ申立ツヘキモノトス

獨 第七百七十九條 負債者意思ノ陳述ヲナスヘキノ言渡ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定シタルトキ直ニ其陳述ヲナシタルモノト看做ヌ報償ヲ得ルニアラサレハ意思ノ陳述ヲナササルコトヲ得ヘキトキハ第六百六十四條第六百六十六條ノ規定ニ從ヒ確定判決ノ執行公製書ヲ交付シタルトキ直ニ其陳述ヲナシタルノ効アルモノトス
第一項ノ規定ハ婚姻取結ヲ言渡ス場合ニハ之ヲ適用セサルモノトス

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百二十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百二十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

○假差押及ヒ假處分

八百五十一

○假差押及ヒ假處分

〔字解〕〔解義〕〔分析〕〔理由〕〔的例〕〔比較〕 本而條ハ假差押ハ如何ナル場合ニ於テ如何ナル物ニ對シ如何ナル目的ヲ以テ之ヲ爲スモノナルヤヲ示定セリ
假差押トハ金錢ノ債權ニ付キ又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ將來ニ於テ爲スヘキ動産若クハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メニ債務者ノ所有ニ係ル是レ等ノ財産ヲ差押フルヲ謂フナリ夫レ假差押ハ已ニ訴ヲ提起シテ未タ終局判決ヲ受ケサル債權若クハ終局判決ヲ受ケテ未タ確定ニ至ラサル債權ニ付キ之ヲ爲シ又ハ未タ訴ヲ提起セサル債權ニ付キ之ヲ爲シ加之ノミナラス尙ホ未タ辨濟期限ニ至ラサル債權ニ付テモ亦之カチ爲スコトヲ得

サ又保全ノ爲メノ假差押ハ現狀ノ權利者ニ對シ不利益ナル變態ヲ現ハスコトヲ豫防スル爲メニノミ許スヘキモノナリ故ニ此假差押ハ權利者假差押ヲ以テ現時金圓ノ供給ヲ求メサルニ於テハ將來執行ノ期ニ至リ其金額ノ全部若クハ一部ヲ供給セシムルヲ得ス若クハ供給セシメ難キトキ例ニハ義務者財産ヲ浪費シ若クハ濫ニ賣却シ又ハ逃亡シ若クハ逃亡セントスル恐レアルトキノ如キ場合ニノミ之ヲ許スモノトス
抑此假差押法ヲ設クル所爲ノモノハ要スルニ債務者カ其動産不動産ヲ以テ債權者ニ對シ義務ヲ盡ササル可ラサルモノアルニ拘ラヌ裁判ノ確定セサルヲ奇貨トシ擅ニ其物件ヲ動カシ之カ爲メニ判決確定ニ至リテハ執行ヲ爲シ得ヘキ物件ナキニ至ルカ如キ恐レナキヲ保セサルカ故ニ此危險ヲ防ク爲メ債權者ノ請求ニ因リ其物件ヲ保全スルノ方法ヲ設ケ以

テ他日債務者ニ於テ義務ヲ辨濟シ得サル如キコト無ラシメントシタルモノナリ此理由ニ因リテ假差押ナル方法ヲ設ケタルカ故ニ彼ノ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ許シタリ蓋シ若シ不正ナル債務者ニ遭逢シタルトキハ其債務カ未タ期限ニ至ラサルヲ奇貨トシ巧ニ資産ヲ掩蔽シ以テ債權者ノ請求ヲ免カルルカ如キコトアルニ至ル可クレハナリ

以上説述スル所ニ因レハ假差押ニハ自ラ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ナラサル可ラス又其目的ハ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ爲サントスルニ存セサル可ラス
債務者ニ或ル行爲不行爲ヲ求ムルトキ若シ其請求ニシテ金錢ニ代ヘ得サルカ如キ場合又強制執行ノ目的債務者ノ動産又ハ不動産ニ存セサルトキノ如キ場合ニ於テハ假差押ヲ求ムルコトヲ得ス

第二 假差押ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲シ能ハサルトキ又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐レアルトキ
假差押ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲シ能ハサルトキトハ物件ノ買主カ代金ヲ拂ハスシテ物件ヲ受取リ之カ代金ノ拂渡ヲ肯セヌ又物件ノ返還ヲモ爲ササル場合ニ於テハ其物件ニ付假差押ヲ爲スニアラサレハ其物件ハ買主ノ手ヨリ第三者ニ轉々シテ遂ニ其所在ヲ失スルノ恐アルカ如キ場合ニ云ヒ又假差押ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ

○假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

生フル、恐レアルトキトハ其物件ノ散逸又ハ消滅シ若クハ債務者ノ逃亡等ノ恐レアルカ如キ場合ヲ云フ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難アルモノトス

此ニ注意スヘキハ假差押ト假處分ノ區別之レナリ假差押ト云ヒ假處分ト云フ共ニ執行ヲ保全スル爲メニ債務者ノ財産ニ對スル處分權ヲ制限スルニ在リト雖トモ假差押ハ金圓ノ供給若クハ金圓ヲ以テ代償シ得ヘキ物品ノ供給ヲ確實ニスルカ爲メニ之ヲ爲スモノニシテ假處分ハ一定ノ物例ニハ物品ノ引渡收買權徑路通行權ノ如キヲ確實ニスルヲ以テ目的トナスモノナリ尙ホ換言セハ既ニ始マリ若クハ將サニ始マラントスル直接ノ訴訟物件ニ關シ保全ノ處置ヲ爲スヲ謂フナリ

〔參照〕 獨 第七百九十六條 押置ハ金錢要求又ハ金錢要求ニ變スルコトヲ得ル請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對シテ爲ス權制執行ヲ保全スル爲メ之ヲナスモノトス

押置ハ請求有期ノモノナルモ之ヲナスニ妨ケナキモノトス
獨 第七百九十七條 物件ノ押置ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ無効トナシ又ハ甚タ困難ナラシムルノ恐レアルトキ之ヲナスコトヲ得ルモノトス
充分ナル押置ノ理由ト看做ス可キモノハ判決ヲ外國ニ於テ執行スヘキトキナリトス

第七百二十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押ヲ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

〔解義〕 本條ハ假差押ヲ爲ス可キ管轄裁判所ヲ示定セリ

假差押ノ命令ハ假ニ差押ヲ可キ財産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所ノ管轄ニ屬ス故ニ債權者ノ便宜ニ從ヒ此兩個ノ裁判所ノ一ヲ選テ假差押ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ此ニ所謂本案ノ管轄裁判所トハ現在將來及ヒ過去ニ於ケル本案事件ノ第一審管轄裁判所ヲ謂フナリ然レトモ現ニ本案訴訟カ第二審裁判所ニ繫屬スルトキハ第二審裁判所ヲ以テ本案ノ假差押裁判所ト爲ス(第七百六十二條)

〔參照〕 獨 第七百九十九條 押置ノ命令ニ付テハ本事件ノ裁判所並ニ押置セラルヘキ物件又ハ身体上自由ヲ制限セラルヘキ人ノ現在スル地ヲ管轄スル區裁判所其權限ヲ有スルモノトス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疎明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 〔理由〕 本條ハ假差押ノ申請ニ具備ス可キ條件ヲ示定セリ

假差押ヲ爲スニハ前ニモ説述スル如ク第一金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得

○假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

ヘキ請求ナルコト第二假差押ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲シ能ハサルコト又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生マル恐アルコトノ二條件ヲ要スルヲ以テ之カ申請ヲ爲スニモ此二條件ヲ具備セサル可カラズ即チ本條第一號ハ右第一ノ條件ヲ指シ第二號ハ第二ノ條件ヲ指スモノトス而シテ第一號ノ請求及ヒ第二號ノ理由ハ之ヲ疏明セサル可ラス何トナレハ名チ假差押ニ假リ他人ノ財産ヲ蹊躪シ其間ニ利益ヲ僥倖セントスルカ如キモノナキヲ保セサレハナリ

右申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ書記ヲシテ録取セシムルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第八百條 押置申立ニハ請求及ヒ其金額又ハ價格並ニ押置ノ理由ヲ記載スヘシ

請求及ヒ押置理由ハ之ヲ證明スヘキモノトス

其申立ハ裁判所書記ニ陳述シテ筆記セシムルコトヲ得

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖トモ假差押ニ因リ債務者ニ生ヌ可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖トモ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得
保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メニ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

〔解義〕 第七百四十二條乃至第七百四十三條ハ假差押ノ申請ニ付キ裁判ヲ與フル方法及ヒ權限又ハ保證ヲ立シム可キ場合ヲ示定セリ

第七百四十一條 第七百四十二條 第七百四十三條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其裁判ハ決定ヲ以テス若シ口頭辯論ヲ

○假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

經テ裁判ヲ爲ストキ其裁判ハ決定ヲ以テスルコトナク終局判決ヲ以テス可キナリ此終局判決ニ對シテハ通常ノ規定ニ從ヒ控訴若クハ上告ヲ爲スコトヲ得可ク而シテ此決定ニ對シテハ申請ヲ許ストキハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得可ク申請ヲ却下スルトキハ一般ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ又此決定ヲ爲スニ際シテ事急迫ザリト認ムルトキハ決定ニ換フルニ裁判長ノ命令ヲ以テスルコトヲ得ヘシ(第七百六十三條)

裁判所ハ前條ニ掲グル二個ノ條件即チ請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明セサルコト雖トモ事緊急ナリト認ムル等ノ場合ニ於テハ債權者ヲシテ是等ノ説明ヲ爲サシムルコトナク裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル所ノ保證ヲ立テシメテ以テ假差押ヲ命スルコトヲ得ヘシ又之ニ反シテ請求及ヒ理由ヲ説明シタルトキト雖トモ其事情ノ如何ニ因リ仍ホ自由ナル意見ヲ以テ定ムル所ノ保證ヲ立テシメタル後假差押ヲ命スルコトアル可シ總テ保證ヲ立テシメテ假差押ヲ命スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ了知セシムル爲メ假差押ノ裁許ニ於テ債權者カ若干ノ保證ヲ立テタルコト及ヒ其立テタル方法ヲ明揭ス可キモノトス終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ當然一般ノ原則ニ依リ之ヲ言渡スコトヲ要ス而シテ其口頭辨論ヲ用ヒシテ決定ヲ爲シ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ言渡サス必ス職權ヲ以テ決定ノ止本ヲ債權者及ヒ債務者ニ送達ス可キナリ然レトモ假差押ノ申請ヲ却下シタル決定又ハ債權者ニ對シテ保證ヲ立ツヘキコトヲ命シタル決定ハ之ヲ債務者ニ送達スルヲ要セサルナリ

差押ヲ命スル裁判ニハ債務者ヲシテ假差押ノ執行ヲ停止スルヲ得セシムル爲メ又ハ執行停止後假差押ヲ取消スルヲ得セシムル爲メ債務者ヨリ供託シ可キ金額ヲ掲ク可シ故ニ債務者ハ此指定ノ金額ヲ供託スルコトヲ要ス假差押裁判所ニ申立テテ假差押ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第八百一條 裁判ハ豫メ口頭上審問ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ請求及ヒ押置理由ヲ證明セサルコト雖トモ對手ニ生ゼントスル損害ニ付キ其見込ヲ以テ定ムヘキ保證ヲナスコトキハ押置ヲ命スルコトヲ得裁判所ハ請求及ヒ押置理由ヲ證明スルトキト雖トモ其保證ヲナスニアラサレハ押置ノ命令ヲ發セサルコトヲ得

獨 第八百二條 其中立ヲ付テノ裁判ハ豫メ口頭上審問ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲナシ其他ノ場合ニ於テハ決議ヲ以テ之ヲ爲スモノトス
押置ヲナサシメタル原被告一方ハ押置ヲ命スル決議ヲ送達セシムヘキモノトス
押置申立ヲ却下シ又ハ豫メ保證ヲナスコトヲ必要ナリト言渡ス決議ハ對手ニ之ヲ通知セサルモノトス

獨 第八百三條 押置命令書ニハ藏密ニ依テ押置ノ執行ヲ停止シ及ヒ債權者執行セラレタル押置ノ廢棄ヲ申立ツルノ權ヲ得ル金額ヲ確定スヘキモノトス

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ

○假差押及ヒ假處分

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セシメ
第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當
事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取
消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツヘキコトノ條件ヲ
附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

〔解義〕〔理由〕〔的例〕 第七百四十四條ハ假差押ノ決定ニ對シテ債務者ハ異議ヲ申立テ
得ヘキコトヲ示定シ第七百四十五條ハ異議ノ申立テアリタル場合ニ於ケル裁判手續ヲ示
定セリ

第七百四十四條 第七百四十二條第一項末段ニ因リ決定ヲ以テ假差押ヲ命スル裁判ヲ爲
シタルトキハ債務者ハ此決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ而シテ此異議ニ付テハ假
差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可キナリ假差押ノ取消ノ理由トハ假差押ヲ
爲スニ付テノ要件ノ不備即チ第七百四十條第二號ノ條件ヲ備エサルニ假差押ヲ爲シタル
コト不當ナリト申立ツルカ如キヲ云ヒ又假差押ノ變更ノ理由トハ債權額百圓ナルニ百五十
圓ニ相當ナル財産ヲ差押ヘラレタルハ不當ナリト主張スルカ如キヲ云フナリ然レトモ本
案ノ請求ニ關スル異議例ニハ債務者負ルコトナク又債務ヲ辨濟セシニ此差押ヲ爲スハ

不當ナリト主張スルカ如キ異議ハ之ヲ許サス何トナレハ起訴前ノ差押ニ係ルトキハ債務
者ハ第七百四十六條ニ因リ債權者ヲシテ訴ヲ起サシメ然ル後權利ノ有無ヲ争フコトヲ得
ヘク又起訴中ノ差押ナルトキハ無論其訴訟ニ於テ此争ヲ爲スコトヲ得ヘケレハナリ
然レトモ此異議ノ申立アリタル爲メ假差押ノ執行ハ之ヲ停止セサルコトトセリ是レ名ヲ
異議ニ假リ假差押ヲ停止セシメ其間ニ巧ミニ物件ノ處分ヲ爲シ法律ニ於テ假差押ヲ設ク
ル精神ヲ全フスル能ハサルニ至ルノ恐レナルカ故ナリ

第七百四十五條 異議ノ申立テアリタルトキハ當事者即チ異議ヲ申立テタル者及ヒ假差
押ヲ請求シタル債權者ヲ呼出シ口頭辯論ヲ開キタル後裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ
全部ノ認可即チ異議ヲ排斥スルノ判決又ハ一部ノ認可即チ其主張ノ幾部ヲ採用シ他ノ幾
部ヲ排斥スルコト變更又ハ取消即チ其命シタル假差押ヲ變更シテ更ニ他ノ方法若クハ範
圍ニ於テ之ヲ爲ス可キコト又全ク異議ノ主張ヲ理アリトシテ假差押ノ決定ヲ取消スノ言
渡ヲ爲ス可キナリ又裁判所ハ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツヘキコトノ條件ヲ附
シテ認可變更又ハ取消ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ

〔參照〕 第八百四條 押置ヲ命スル決議ニ對シテハ抗辨ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
抗辨シタル原被告ノ一方ハ押置ノ廢棄ヲ申立テント欲スル理由ヲ對手ニ通知シテ口頭上審
問ニ之ヲ換出スヘキモノトス
抗辨ヲ爲スモ押置ノ執行ハ之ヲ停止セサルモノトス

○假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

第八百五條 抗辨ヲナストキハ押置ノ當否ニ付キ終局判決ヲ以テ裁決スヘキモノトス
裁判所ハ押置ノ全部又ハ一部ヲ認可シ又ハ變更シ又ハ廢棄スルコトヲ得亦其見込ヲ以テ定ムヘキ保證ヲ爲スニアラサレハ其認可又ハ變更又ハ廢棄ヲナサルコトヲ得

第七百四十六條 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理申消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖トモ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

〔解義〕(理由)第七百四十六條ハ起訴前ノ假差押ニ係ルトキハ債務者ノ申立ニ由リ或ル期限内ニ起訴ヲ命ス可キコトヲ示定シ第七百四十七條ハ後日ニ至リ假差押ノ取消ヲ爲ス可キ場合ヲ示定セリ

第七百四十六條 本案ノ訴ヲ提起セサル前假差押ヲ命シタル場合ニ於テハ債務者ハ執行者ノ本案ノ訴ヲ提起セザル爲メ不定時間ニ假差押ヲ受クルノ困難アルヲ以テ假差押裁判所ハ假差押ノ決定若クハ判決ヲ爲シタル後何時タリトモ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ本案ノ訴ヲ起ス可キコトヲ決定ヲ以テ債權者ニ命ス可シ此場合ニ於テ事急迫ナリト認ムルトキハ合議裁判所ニ於テハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第七百六十三條)

債權者カ此期間ヲ經過シテ本案ノ訴ヲ起ササルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ審理ヲ爲シタル後終局判決ヲ以テ前ニ爲シタル判決若クハ決定ニ基ク所ノ假差押ヲ取消ス可キナリ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ若クハ變更シタルトキ即チ第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ニ定ムル假差押ノ條件タル理由ノ消滅シ若クハ變更シタルトキハ之ヲ理由トナシ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントヲ理由ト爲ストキハ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ此申立ハ債權者カ未タ本案ノ訴ヲ起ササル場合ニ於テハ之ヲ假差押裁判所ニ爲ス可ク已ニ起シテアレントキハ其訴ノ現ニ繫屬ス

○假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

ル裁判所ニ之ヲ爲ス可キモノトス而シテ此申立ヲ受ケタル裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシメ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス若シ假差押ヲ取消ス判決ヲ爲ストキハ第五百一條第四號ノ規定ニ從ヒ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付ス可キナリ

〔參照〕 獨 第八百六條

本事件裁判關係トナラサルトキ押置裁判所ハ申立ニ依リ豫メ口頭上審問ナクシテ其定ム可キ期限内ニ訴訟ヲ提起スヘキコトヲ押置命令ヲ發セシメタル原告ノ一方ニ命スヘキモノトス

其命令ニ從ハサルトキハ申立ニ依リ終局判決ヲ以テ押置ノ廢棄ヲ言渡スヘキモノトス獨 第八百七條 押置ノ廢棄ハ押置ヲ認可シタル後ト雖トモ狀況ノ變更シタルニ依リ特ニ押置理由ノ消滅シ又ハ裁判所ノ見込ヲ以テ定ムヘキ保證ヲ申込ニ依リ之ヲ申立ルコトヲ得

其判決ハ終局判決ヲ以テ之ヲ言渡スヘキモノトス其判決ハ押置ヲ命シタル裁判所之ヲナシ本事件裁判關係トナリタルトキハ本事件ノ裁判所之ヲナスモノトス

第七百四十八條

假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條

假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ

十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖トモ之ヲ爲スコトヲ得

〔解説〕

第七百四十八條ハ假差押ノ命令ヲ執行スルニハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ爲スコキヤヲ示定シ第七百四十九條ハ假差押命令ニハ或ル場合ヲ除クノ外執行文附記ヲ要セサルコト及ヒ命令ヲ執行シ得ヘキ期間又之ヲ執行ヲ初メ得ヘキ時期ヲ示定セリ

第七百四十八條 抑假差押ハ將來ノ強制執行ヲ確實ニスル爲メ該執行ノ前驅ヲ爲スモノナリ故ニ其結果ニ至テハ本強制執行ト大差アルコト固ヨリ論ヲ俟タスト雖トモ債務者ノ意思如何ニ拘ハラズ其財産ヲ差押フルニ至テハ彼此相異ナルコトナキヲ以テ法律ハ其執行ニ付キテハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用スルコトト爲セリ然レトモ假差押ノ爲メノ執行手續ハ將來ノ執行ヲ確實ニ爲ヌノ目的外ニ奔馳ス可ラサルヲ以テ以下數條ニ於テ特ニ規定スル手續ハ固ヨリ之ヲ遵守セサル可ラス

第七百四十九條

假差押ハ終局判決ヲ以テ之ヲ命シタルト決定ヲ以テ之ヲ命シタルトナ問ハス執行力アル正本ノ付與ヲ要セス且裁判ノ確定ヲ待タズ直ニ其裁判ニ基ツキ執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ只其裁判後ニ於テ債權者又ハ債務者ノ承繼ヲ爲ス者アルトキニ限り執行文ノ付與アルコトヲ要スルナリ然リ而シテ此裁判ハ之ヲ言渡シタル場合ニ於テハ言渡シタル十四日ノ期間ニ其執行ニ着手ス可ク又決定ヲ送達シタル場合ニ於テハ其送達ヨリ十

○假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

四日ノ期間内ニ執行ニ着手ス可シ若シ此期間ヲ徒過スルトキハ假差押裁判ハ自然ニ其効
力ヲ失ヒ復タ之ヲ執行スルコトヲ得ズ故ニ債權者ハ此期間内ニ於テ債務者カ未タ裁判ノ
發達ヲ受ケサル前ト雖トモ此執行ニ着手スルコトヲ得ヘキナリ

〔參照〕 獨 第八百八條 押置ノ執行ニハ亦權制執行ニ付テノ規定ヲ適用スルモノトス但
以下數條ニ於テ之ニ違フ規定ヲ掲グルモノハ此限ニアラス

獨 第八百九條 押置命令狀ハ其命令ヲ發シタル後債主又ハ負債者ニ於テ權利相續アリ
タル場合ニ限り執行文ヲ要スルモノトス

押置命令ノ執行ハ其命令ヲ言渡シ又ハ申立テ以テ其命令ヲ發セシメタル原被告一方ニ送
達シタル日ヨリ二週ヲ經過シタルトキハ之ヲ許ササルモノトス

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒ
テ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所
トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁
スル命令ノミヲ爲スコシ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證

券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生
スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執
行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ
命スルコトヲ得

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿
ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス
可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港
ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船
舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

〔解説〕 第七百五十條乃至第七百五十三條ハ假差押ノ命令ヲ執行ス可キ方法ヲ示定セリ
第七百五十條 第七百五十一條 第七百五十二條 第七百五十三條 動産ニ對スル假差
押ノ執行ハ強制執行ノ爲メニ爲ス動産ノ執行ト同一ノ方法即チ差押ヲ以テ爲スモノトス
然レトモ左ニ掲グルモノニ付テハ強制執行ト其規定ヲ異ニス

○假差押及ヒ假處分

第一 債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス是レ強制執行ニ於ケル(第五百九十五條)ノ規定ト異ナル

第二 債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲナスヘシ是レ強制執行ニ於ケル(第五百九十八條)ノ規定ト異ナル

第三 假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可ク其他假差押ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲ササルヲ以テ原則トス是レ強制執行第五百七十二條以下ノ規定ト異ナル

假差押ハ後日ノ執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スト雖トモ差押債權者果シテ之ヲ受領スルノ權アリヤ否ヤ未ダ確定セサルモノナルヲ以テ差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ之ヲ爲ササルヲ以テ原則ト爲ス然レトモ差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐レアルトキ又ハ其貯藏ニ付不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ之カ例外トシテ執行裁判所ハ關係人ノ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得トセリ是レ經濟上ヨリ起レル規定ニシテ寔ニ適當ト謂フ可シ

第四 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルノミニ因リテ之ヲ爲ス是レ強制執行(第六百四十四條以下)ノ規定ニ比シ其手續簡略ナリ

第五 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全スヘキ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス是レ強制管理ニ於ケル(第七百六條以下)ノ規定ト異ナル

第六 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ單ニ船舶ヲ差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテノミ之ヲ爲ス是レ船舶ニ對スル強制執行(第七百十七條以下)ノ規定ニ比シ其手續簡略ナリ

トニ因リテノミ之ヲ爲ス是レ船舶ニ對スル強制執行(第七百十七條以下)ノ規定ニ比シ其手續簡略ナリ

〔參照〕 獨 第八百十條 動産ニ對スル押置ノ執行ハ質取ヲ以テ之ヲナスモノトス其質取ハ他ノ各質取ト同一ノ原則ニ從テ之ヲナシ第七百九條ニ定メタル効力ヲ有スル質主權ヲ生スルモノトス要求ノ質取ニ付テハ押置裁判所執行裁判所タルノ權限ヲ有ス
質取シタル金錢及ヒ分配手續ニ於テ債主ノ有ニ歸シタル賣得金ノ額ハ之ヲ藏寄スルモノトス

執行裁判所ハ申立ニ依リ動物件著ク價額ヲ減スルノ恐レアルトキ又ハ其物件ノ保存ニ依リ不相當ノ費用ヲ生スヘキトキ之ヲ公賣シテ其賣得金ヲ藏寄スヘキコトヲ命スルヲ得
獨 第八百十一條 不動産ニ對スル押置ノ執行ハ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且ツ之レカ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕〔的例〕本條ハ假差押命令ヲ取消ス可キ場合ヲ示定セリ

假差押ニ着手シ又ハ假差押ヲ爲シタル後ニ於テ左ニ掲クル事情アルトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ假差押命令ヲ取消ス可シ

一 債務者カ假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキ(第七百四十三條)

二 假差押ヲ續行スルニ付キ特ニ支出ス可キ費用ヲ要スル場合ニ於テ債權者カ其必要ナル金額ヲ豫納セサルトキ

假差押ヲ續行スルニ付キ特ニ支出ス可キ費用ヲ要スル場合トハ例ニハ動物ヲ差押タルトキ日日其飼養料ヲ要スルトキノ如キヲ云フ

右裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ口頭辨論ヲ經ルヲ要セス而シテ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

〔參照〕獨 第八百十三條 執行シタル押置ヲ押置命令ニ定メタル金額ノ藏貯ヲ得テ廢棄スルトキハ執行裁判所之ヲ爲スモノトス

執行裁判所ハ押置ノ繼續ニ依リ別段ノ費用ヲ要シ申立ヲ以テ押置ヲ爲サシメタル原告

ノ一方必要ナル金額ヲ前拂セサルトキノモ亦押置ノ廢棄ヲ命スルコトヲ得

本條ニ記載シタル裁判ハ豫メ口頭上ノ審問ナクシテ之ヲナスコトヲ得

押置ヲ廢棄スル決議ニ對シテハ即時故障ヲ申立ルコトヲ得

第七百五十五條

係争物ニ關スル假處分ハ現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

〔解義〕〔的例〕〔比較〕本條ハ係争物ノ假處分ニ關スル規定ナリ

假處分ハ假差押ト等シク義務者ノ將來盡ス可キ義務ヲ確實ニスル爲メ之ヲ爲スモノナリ

然レトモ假處分ハ金圓ノ供給若クハ金圓ニ換ユルコトヲ得ヘキ物品ノ供給ヲ確實ニスル

カ爲メニ非ラスシテ特定ノ係争物件ヲ安全ナラシムルヲ以テ目的ト爲スモノナリ故ニ此

點ニ於テ假差押ト其性質ヲ異ニス尙ホ詳ニ之ヲ言エハ假處分ハ既ニ始マリ若クハ將ニ始

マラントスル直接ノ訴訟物件ニ對シ之ヲ爲スモノナリ

假處分ハ左ノ事情アルニ非ラサレバ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハサルトキ例ニハ係争ノ物件ヲ他人ニ賣却シ或ハ隱匿セントスルトキ

二 權利ノ實行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐レアルトキ例ニハ地上權ニ付キ争ヒツ、

アルニ際シ一方ニ於テ之ニ工事ヲ起サントスルカ如キ之レナリ此場合ニ於テ一方ノ行爲

ヲ停止スルニ非ラサレハ係争物ノ現状ニ變更ヲ生シ從テ之カ權利ヲ行フニ著シキ困難ヲ

生スルモノナリ

〔參照〕獨 第八百十四條 訴訟事件ニ關スル臨時處分ハ現状ノ變更ニ依リ原告一方ノ

○假差押及ヒ假處分

權利ノ實行ヲ無効トナシ又ハ著ク困難ナラシムルヲ恐レアルトキ之ヲナスコトヲ許スモノトス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 第七百五十六條ハ假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ以下數條ニ於テ差異ノ生スルモノヲ除キ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ取捨適用ス可キコトヲ示定シ第七百五十七條ハ假處分ノ命令ヲ管轄ス可キ裁判所及ヒ之カ處分ヲ爲スノ方法ヲ示定セルマテニシテ別ニ解釋ヲ要セス只注意スヘキハ第七百五十七條ニ在ル本案ノ管轄裁判所トハ本案事件ノ現ニ繫屬シ若シハ繫屬ス可キ若シハ繫屬シタル第一審裁判所又ハ現ニ第二審ニ繫屬スルトキハ第二審裁判所ヲ謂フナリ

〔參照〕 獨 第八百十五條 臨時處分ノ命令及ヒ其他ノ手續ニハ亦押置命令及ヒ押置手續ニ付テノ規定ヲ適用スルモノトス但以下數條ニ於テ之ニ違フ規定ヲ掲ルモノハ此限ニ在ラス

獨 第八百十六條 臨時處分ヲ發スルニ付テハ本事件ノ裁判所權限ヲ有スルモノトス其裁決ハ切迫ナル場合ニアリテハ豫メ口頭上ノ審問ナクシテ之ヲナスコトヲ得

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

〔解義〕 〔的例〕 本條ハ假處分ノ目的ヲ達スルニ必要ナル方法ヲ示定セリ

假處分ノ目的ヲ達スルカ爲メ如何ナル處分ヲ爲スコキヤハ管轄裁判所ノ意見ニ任スモノニシテ本條ハ左ノ方法ニ因テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシトセリ

- 一 保管人ヲ置キテ其物件若クハ或ル事業ヲ保管セシムルコト
- 二 第三者ヲシテ係争物件若クハ事業ノ保護管理ヲ爲サシメ係争者ヲシテ之ニ關係ヲ爲サシメスシテ訴訟ノ結果ヲ待タシムルヲ云フ
- 三 相手方即チ被請求者ニ或ル行爲ヲ命スルコト

○假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

八百七十四

例ニハ隣地ヨリ水流横溢シ爲メニ庭園ニ奔流セントスルカ如キ場合ニ於テ地役ノ有無ヲ
爭フトキハ裁判所ハ假處分請求者ノ申請ニ因リ相手方ニ假ニ其水流ヲ支ユルノ方法ヲ設
ケシムルコトヲ得ヘシ

三 相手方ニ或ル行為ヲ禁スルコト

例ニハ隣地ニ於テ障壁ヲ設ケ觀望權ヲ害セントスル場合ニ於テ假リニ其工事ノ差止ヲ命
ズルカ如キ或ハ又隣地ヲ堀リ鑿ツニ於テハ家屋ノ傾倒セントスルノ恐レアルヲ以テ之ヲ
防ク爲メ假リニ其堀割ヲ差止メシムルカ如キ是レナリ

四 相手方ニ給付ヲ命スルコト

例ニハ養料ノコトニ關シ爭訟セル場合ニ於テ假ニ養料ヲ給付セシムルカ如キ是レナリ

五 假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ登記簿ニ其禁止
ヲ記入セシムルコト

〔參照〕 獨 第八百十七條 裁判所ハ其見込ヲ以テ目的ヲ達スル爲メニハ何レノ命令ヲ要
スルヤヲ定ムルモノトス

臨時處分ハ保管ヲナシ或ニ對手ニ行為ヲナスコトヲ命シ又ハ禁シ特ニ地所ノ賣讓又ハ負
擔又ハ質入ヲ禁スルコトヲ以テモ亦之ヲナスコトヲ得

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ
取消ヲ許スコトヲ得

〔解釋〕 〔的例〕 本條ハ假處分ヲ命シタル後ニ於テ之レカ取消ヲ爲ス場合ヲ示定セリ

裁判所ハ一旦假處分ヲ命シタル後ト雖トモ特別ノ事情アルトキ即チ假處分ヲ續行スルニ
於テハ格段ナル困難アルコトヲ認メタルトキ又ハ假處分ヲ續行スルニ於テハ假處分被請
求者ニ回復ス可シサル損害ヲ生スル等ノ事情アルトキハ假處分被請求者ニ保證ヲ立テシ
メテ前決定シタル假處分ヲ取消スコトヲ得ヘキナリ故ニ假令特別ノ事情アルト雖トモ假
處分被請求者ヨリ保證ヲ立テシムルニ非ラサレハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

〔參照〕 獨 第八百十八條 特別ノ狀況アルトキニ限り保證ヲ得テ臨時處分ノ廢棄ヲナス
コトヲ得

第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲メニ

モ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ
損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ
必要トスルトキニ限ル

〔解釋〕 本條ハ第七百五十五條ノ外尙ホ假處分ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ示定セリ

假處分ハ當ニ係争ノ特定物ニ付キ之ヲ爲スノミナラス係争ノ權利關係ニ付テモ亦之ヲ爲
スコトヲ得ヘシ此係争ノ權利關係ニ付キ爲ス所ノ假處分ハ假リニ權利者タルノ地位ヲ定
メ置クモノナリ例ニハ暴行ヲ爲スノ危險アル場合ニ於テ假ニ係争物ノ保有ヲ定ムルコト
又ハ建築ヲ爲スノ權利ニ付キ争アル場合ニ於テ假ニ建築ノ繼續ヲ禁スルコト又ハ養料ノ

○假差押及ヒ假處分

八百七十五

○假差押及ヒ假處分

義務ニ付キ争アル場合ニ於テ假ニ其義務ヲ言渡ス等ノ如シテ之ヲ許スハ權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ排除シ若クハ急迫ナル強暴ヲ防禦スル爲メ其他之ニ類スル適當ノ理由アリテ之ヲ必要トスルトキニ限ルモノトス

〔參照〕 獨 第八百十九條 臨時處分ハ争ヒトナリタル權利上關係ニ付キ一時ノ狀況ヲ處分スル爲メニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ特ニ繼續スル權利上關係ニ付キ重大ナル損害ヲ除キ又ハ切迫ナル暴力ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ依リ之ヲ必要ナリトスルトキニ限ル

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テハ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕〔辨疑〕 本條ハ急迫ナル場合ニ於テハ係争物所在地ヲ管轄スル區裁判所モ亦假處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定セリ

急迫ナル場合ニ於テハ係争物所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ向ヒ假處分ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ本條ハ急迫ナル場合ヲ必要トスルカ故ニ速ニ假處分ヲ爲スニアラサレハ回復ス可ラサル損害ヲ來ス場合ナルカ或ハ非常ノ損害ヲ醸スノ恐レアル等ノ場合ニ限り右裁判所ニ申請ヲ爲シ得ヘキナリ

裁判所ハ此申請アリタルトキハ先ツ急迫ナル事情アリヤ否ヲ審ニス可シ而シテ急迫ナル事情アリト認ムルトキハ假處分ノ當否ニ付キ本案ノ管轄裁判所(第七百五十七條)ニ向ヒ相手方ヲ呼出シ口頭辯論ヲ開クコトノ請求ヲ爲スヘキコトノ期間ヲ定メ假處分ヲ爲スヘシ若シ請求者ニ於テ此期間ヲ徒過シタルトキハ裁判所ハ相手方ノ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可キナリ

右假處分ノ命令及ヒ取消ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ
本條ニ於テ尚ホ講究ス可キハ係争物所在地ノ管轄裁判所ニ於テ假處分ノ申請ヲ受ケタルトキ若シ急迫ナル事情ナシト認ムルトキハ如何ニ之ヲ處分シテ可ナリヤノコト及ヒ其決定ニ定ムル期間内ニ本案ノ管轄裁判所ニ其處分ノ當否ヲ求ムルトキハ右決定ニ對シテ如何ナル効果ヲ及ホス可キヤノコト是ナリ右第一ノ場合ニ於テハ其申請ヲ却下ス可キナリ又第二ノ場合ニ於テハ二箇ニ區分セサル可ラス本案ノ管轄裁判所ニ於テ假處分ノ請求ヲ至當ト決定シタルトキハ前決定ハ依然効力ヲ保持ス可シ若シ其請求ヲ不當ト決スルトキハ前決定ハ自ラ其効力ヲ失フ可キナリ

〔參照〕 獨 第八百二十條 切迫ナル場合ニ於テハ訴訟事件ノ現在スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ假差押及ヒ假處分

○假差押及ヒ假處分

判所臨時處分ノ當否ニ付テノ口頭上審問ノ爲メ對手ヲ本事件ノ裁判所ニ喚出スヘキ期限ヲ定メテ臨時處分ヲ發スルコトヲ得

此期限ヲ空シク經過シタル後區裁判所ハ其發シタル處分ヲ申立ニ依リ廢棄スヘキモノトス

本條ニ記載シタル區裁判所ノ裁判ハ豫メ口頭上審問ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

〔解義〕 本條ハ本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所トハ何レノ裁判所ヲ指稱スルヤヲ示定セリ

本章第七百三十九條第七百四十七條第二項及ヒ第七百五十七條等ニ規定セル本案ノ管轄裁判所トハ第一審裁判所ヲ謂フナリ只本案カ控訴ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トナシ故ニ訴訟ノ上告審ニ繫屬スル場合ヲ始メ其他ノ場合ハ悉ク第一審裁判所ヲ以テ本案ノ管轄裁判所トナス可キナリ

〔參照〕 獨 第八百二十一條 此章ノ規定ニ謂ヘル本事件ノ裁判所ト看做スコキモノハ始審ノ裁判所ナリトシ本事件控訴裁判ニ於テ裁判關係トナリタルトキハ控訴裁判所ナリトス

第七百六十二條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁

判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲナスコトヲ得

〔解義〕 本條ハ假差押ト假處分トニ關ハス其事件急迫ニシテ且口頭辯論ヲ要セサルトキハ裁判長ノミニテモ之カ裁判ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定セシマテ之ニ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第八百二十二條 切迫ナル場合ニ於テハ裁判長此章ニ記載シタル申立ニ付キ裁判所ニ代テ裁決スルコトヲ得但其申立ノ完結豫メ口頭上審問ヲナスコトヲ要セサルトキニ限ル

第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示

催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

〔解義〕 本條ハ公示催告ノ何物タルヤヲ示定セリ

公示催告トハ不定ノ對手人若クハ判然セサル權利關係人ヲシテ其請求若クハ權利ニ付キ届出ヲ爲サシメンカ爲メ裁判所ヲシテ届出ツ可キ旨ヲ公告督促セシムルヲ謂フナリ此手續ヲ履行シタルニ猶ホ届出ヲ爲ササルトキハ其請求若クハ權利ヲ實行スルノ効力ヲ

○公示催告手續

○公示催告手續

八百八十

失フモノトス然レトモ此手續ハ如何ナル場合ニ於テ如何ナル要件ノ存スルトキ之ヲ許ス
ヘキヤ又如何ナル人ニシテ此手續ニ因ルコトヲ得ヘキヤ又此手續ヲ行フタルニ其届出ヲ
爲ササルトキハ權利上ニ如何ナル効果ヲ及ボス可キヤハ民法商法其他ノ法律規則ノ規定
ニ因テ知ルコトヲ得ヘシ故ニ此手續ハ法律ニ於テ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル
旨ヲ明定セル場合ニ限リ之ヲ許スモノトス本法第七十七條ニ掲クル商法ノ規定ハ即
チ其一例トス

此手續ハ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

〔参照〕 獨 第八百二十三條 請求又ハ權利ヲ申出テシムル爲メ公告ヲ以テスル裁判上督
促ハ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲナスコトヲ得其督促ハ申出テ怠ルニ依リ權利上損害
ヲ生ゼシムルノ効力アルモノトス

督促裁判手續ニ付テハ法律ニ定メタル裁判所權限ヲ有スルモノトス

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ
得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
申立ヲ許スコキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊
ニ左ノ諸件ヲ掲グ可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ及ヒ
官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルト
キハ第五百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期
日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少クトモ二个月ノ時
間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖トモ除權判決前ニ届出
ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

〔解義〕 第七百六十五條ハ公示催告ノ申立及ヒ申立ニ付テノ裁判方法又申立ヲ許可シタル
トキ公示催告ニ掲グ可キ條件ヲ示定シ第七百六十六條ハ公示催告ノ公告ハ如何ニシテ之
ヲ爲スヤヲ又第七百六十七條ハ公示催告ニ付テノ期間ヲ示定シ第七百六十八條ハ除權判

○公示催告手續

八百八十一

○公示催告手續

決前ニ爲タル届出ハ猶ホ其効力アルコトヲ示定セリ以上ノ諸條ハ法文明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第八百二十四條

申立ハ書面ヲ以テ又ハ裁判所書記ニ筆記セシメテ之ヲ爲スコトヲ得其裁決ハ豫メ口頭上審問ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ認許スルトキ裁判所ハ督促ヲ發ス可キモノトス其督促ニハ特ニ左ノ件々ヲ記載スヘシ

第一 申立人

第二 請求及權利ヲ通クトモ督促期日ニ申立ツヘキコトノ督促

第三 申出チナササルトキ生スル權利上損害

第四 督促期日

獨 第八百二十五條

督促ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ貼附シ及獨逸官報ニ記載シテ之ヲナシ其他法律ニ於テ此場合ニ關シ之ニ違フ規定ヲ設ケサルトキニ限り第八十七條ニ於テ喚出ニ付キ定メタル規定ニ從ヒ之ヲナスモノトス

獨 第八百二十七條

獨逸官報ニ督促ノ記載ヲナシ又ハ第一記載チナシタル日ト督促期日トノ間ハ少ナクトモ六週ノ時間アルヘキモノトス但法律ニ之ニ違フ規定ヲ掲グルトキハ此限ニアラズ

獨 第八百二十八條 督促期日ノ終結後ト雖トモ失權判決ノ言渡前ニナシタル申出ハ之

ヲ期限内ノ申出ト看做スヘキモノトス

第七百六十九條

除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條

申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ

届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

〔解説〕 第七百六十九條ハ除權判決ノコトヲ示定シ第七百七十條ハ申立人ノ權利ヲ爭フ者アル場合ニ於ケル除權判決ノ方法ヲ示定セリ

第七百六十九條 公示催告ノ期日ノ終リニ至ルマテ請求又ハ權利ノ届出ヲ怠ルトキハ被

催告者ハ其權利ヲ失スルモノナリ然レトモ前條ニ規定セル如ク除權判決前ニ届出タルトキハ猶ホ其効力アルヲ以テ公示催告申立人ハ其期日ノ終リタルトキハ裁判所ニ申立テ除權判決ヲ受クルニ非ラサレハ未タ安心スルヲ得サルモノトス

裁判所ハ期日ノ終リタル後催告者ノ申立アルトキハ被催告者ハ失權セリトノ判決ヲ爲シ

○公示催告手續

○公示催告手續

之ヲ言渡ス可シト雖トモ其情況ニ因テハ催告者ニ猶ホ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得ヘシ

裁判所カ除權判決ノ申立ヲ却下スルトキ又ハ制限ヲ付シタル除權判決ヲ爲ストキ又ハ次條ノ如ク判決ニ條件ヲ付シタルトキハ催告者ハ之ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ
第七百七十條 公示催告申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭ハント欲スル旨ヲ届出ツルトキハ裁判所ハ其届出ヲ調査シ果シテ爭フノ事情アルモノト認ムルモハ其權利ノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止スルヤ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保（權利ニ付テノ裁判確定ニ因リ其効力ノ有無定マル可キ旨ノ條件ヲ付シテ）ス可キナリ

〔參照〕 獨 第八百二十九條

失權判決ハ申立ニ依リ公行スル法廷ニ於テ之ヲ言渡スヘキモノトス
其判決ノ言渡前精密ナル索知ヲ命シ特ニ申立人ノナシタル主張ノ眞實ニ付キ宣誓ヲ以テスル保證ヲ命スルコトヲ得

失權判決ノ言渡ヲ求ル申立ヲ却下スル決議並ニ失權判決ニ加ヘタル制限及設若ニ對シテハ即時故障ヲ申立ルコトヲ得

獨 第八百三十條 申立ヲ辨明スル爲メ申立人ノ主張シタル權利ヲ爭フ申出ヲナストキハ場合ノ狀況ニ從ヒ申出テタル權利ニ付テ終局裁判ニ至ルマテ督促裁判手續ヲ延期シ又ハ失權判決ニ於テ申出テタル權利ヲ執行スルコトヲ得セシムヘキモノトス

第七百七十二條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新規日ヲ定ムヘシ此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 第七百七十一條ハ申立人カ公示催告期日ニ出頭シテ除權判決ヲ求メサルトキハ其期日ヨリ六個月内ハ何時ニテモ其申立ニ因リ新期日ヲ定メテ除權判決ヲ爲スコトヲ示定シ第七百七十二條ハ前條ニ從ヒ新期日ヲ定メタルトキハ之カ公告ヲ爲サスシテ直ニ公示催告手續ヲ完結スヘキコトヲ（即チ除權判決ヲ爲スコトヲ）示定シ第七百七十三條ハ除權判決ヲ爲シタルトキハ其判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定セリ

〔參照〕 獨 第八百三十一條 申立人督促期日ニ出延セサルトキハ其申立ニ依リ更ニ期日ヲ定ムヘキモノトス其申立ハ督促期日ヨリ經過スル六月ノ期限内ニ限り之ヲナスコトヲ得

○公示催告手續

○公示催告手續

獨 第七百三十二條 督促裁判手續完結ノ爲メ更ニ期日ヲ定ムルトキハ其期日ノ公告ヲ要セサルモノトス

細 第八百三十三條 裁判所ハ失權判決ノ要旨ノ公告ヲ獨逸官報ニ一回記載シテナスコトヲ命スルヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示權告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示權告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

〔解義〕 第七百七十四條ハ除權判決ニ對シテ上訴ヲ爲スヲ得サルコト及ヒ或ル場合ニ於テハ申立人ニ對スル訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ得ヘキコトヲ示定シ第七百七十五條ハ不服申立ノ訴ニ付テノ期間及ヒ期間ノ起算方ヲ示定セリ

第七百七十四條 第七百七十五條 除權判決ニ對シテ一般上訴ヲ許サスト雖トモ左ニ掲ケル場合ニ於テハ申立人ニ對シ提起ス可キ訴訟ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ

○公示催告手續

○公示催告手續

- 第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非ラサルトキ即チ第七百六十四條第一項ニ背戻スルトキ
 - 第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ即チ第七百六十五條及ヒ第七百六十六條ニ背戻シタルトキ
 - 第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ即チ第七百六十七條ノ期間ヲ存セサルトキ
 - 第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ
 - 第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ即チ請求又ハ權利ノ届出ヲ看過シテ除權判決ヲ爲シタルトキ
 - 第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
- 右訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ササル可ラス而シテ此期間ハ通例ニ於テハ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マリ第七百七十四條第四號及ヒ第六號ニ基キ不服ヲ申立ツル場合ニ於テハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マルモノトス然レトモ除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス
- 〔參照〕 獨 第八百三十四條 失權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
失權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對シ提起ス可キ訴訟ヲ以テ督促裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ルコトヲ得

- 第一 法律ニ於テ督促裁判手續ヲ許ス場合ノ存セサルトキ
 - 第二 督促ノ公告ヲササルトキ又ハ法律ニ規定シタル督促ノ方法ヲ守ラサルトキ
 - 第三 規定上ノ督促期限ヲ守ラサルトキ
 - 第四 判決裁判官法律ニ依リ裁判官ノ職務執行ヲ禁止セラレシトキ
 - 第五 其ナシタル申出ニ拘ハラヌ請求又ハ權利ヲ法律ニ從ヒ判決ニ採用セサリシトキ
 - 第六 罰セラルヘキ行為ニ付キ故態恢復ノ訴訟ヲナスコトヲ得ル要件ノ存スルトキ
 - 獨 第八百三十五條 其不服訴訟ハ一月ノ不變期限内ニ之ヲ提起スヘキモノトス其期限ハ原告失權判決ヲ知了シタル日ヲ以テ始マルモノトス但訴訟法第八百三十四條第四項ニ記載シタル不服理由ノ一ニ憑據シ原告其理由ヲ其日ニ未タ知了セサリシ場合ニ於テハ其理由ヲ知了シタル日ヲ以テ始マル
 - 失權判決言渡ノ日ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ハ訴訟ヲナスコトヲ得ス
- 第七百七十六條 裁判所ハ第二百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖トモ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得**
- 〔解義〕 本條ハ第二百二十條ノ規定ニ於ケル其目的タル請求ヲ一箇ノ訴訟ニ於テ主張シ得ヘキ條件存セサルトキト雖トモ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命シ得ヘキコトヲ示定セリ
- 〔參照〕 獨 第八百三十六條 裁判所ハ第二百三十八條ノ要件ナキトキト雖トモ數箇督促ノ連合ヲ命スルコトヲ得

○公示催告手續

○公示催告手續

八百九十一

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

〔解説〕 第七百七十七條ハ前條ニ規定セル以外ニ公示催告手續ヲ適用ス可キ格段ノ場合ヲ示定シ第七百七十八條ハ前條ニ於ケル公示催告ハ何人ニ於テ申立ツルノ權アリヤチ示定セリ

第七百七十七條 第七百七十八條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書例ニハ商法第四百二條第七百十一條等ニ規定セル證書ニシテ無効宣言ヲ爲ス爲メノ公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

尙ホ此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニシテ其證書ノ事ヲ規定セル法律中別段手續ヲ設ケサルトキハ之ヲ適用スルモノトス

右等ノ證書ニシテ無記名ナルカ又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタルトキ即チ白地證書ナルトキハ最終ノ所持人ヨリ公示催告手續ヲ申立ツ可ク又記名ノ證書ニ付テハ記名者即チ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲スノ權アリトス

〔參照〕 獨 第八百三十七條 紛失シ又ハ破滅シタル爲換手形及ヒ商法第三百一條第三百二條ニ記載シタル證書ノ無効宣言ノ爲メコナス督促裁判手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用スルモノトス

此規定ハ法律ニ於テ督促裁判手續ヲ許ス他ノ證書ニ關シテハ其法律ニ別段ノ規定ヲ掲ケサル場合ニ限り之ヲ適用スルモノトス

獨 第八百三十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得ルモノニシテ白地裏書ヲ備ヘタル證券ニアリテハ最終ノ持主督促裁判手續ヲ求ムルノ申立チナスノ權ヲ有スルモノトス

其他ノ證書ニアリテハ其證書ヨリ生スル權利ヲ執行スルコトヲ得ル者其申立チ爲スノ權ヲ有スルモノトス

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セザルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ

○公示催告手續

八百九十一

有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時
普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在
地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

〔解説〕 本條ハ第七百七十七條ニ付テノ管轄裁判所ヲ示定セシマテニシテ別ニ解釋ヲ要セ
ヌ

〔參照〕 獨 第八百三十九條 督促裁判手續ニ付テハ證書ニ履行地トシテ記載セル地ノ裁
判所權限ヲ有スルモノトス 證書ニ其記載ナキトキハ發行者普通ノ裁判管轄ヲ有スル裁判
所權限ヲ有シ其裁判所ナキトキハ發行者發行ノ際普通ノ裁判管轄ヲ有セシ裁判所權限ヲ
有スルモノトス

證書ヲ發行セラレタル請求ヲ地所帳又ハ書入質帳ニ記入シタルトキハ其物件所在地ノ裁
判所特ニ權限ヲ有スルモノトス

第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ
認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ル

ノ理由タル事實ヲ説明スルコト

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出

テ且其證書ヲ提起ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ
證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ

公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲
示ス可シ

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期

日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ
確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條 除權判決アタルキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

〔解義〕 第七百八十五條ハ申立人ニ於テ申立ノ際盡ササル可ラサル手續ヲ示定シ第七百八十一條ハ公示催告中ニ具備ス可キ條件ヲ示定シ第七百八十二條ハ公示催告ノ公告方法ヲ示定シ第七百八十三條ハ公告ノ日ト公示催告期日ノ間ニ存ス可キ期間ヲ示定シ第七百八十四條ハ除權判決ノ方法及除權判決ノ旨趣及ヒ除權判決ヲ取消シタルトキノ公告方法ヲ示定シ第七百八十五條ハ除權判決後ニ於ケル申立人ノ權利ヲ示定セリ以上ノ各條ハ法文明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第八百四十條 申立人ハ其申立ヲ辨明スル爲メ左ノ義務ヲ有スルモノトス

第一、證書ノ謄本ヲ呈出シ又ハ證書ノ要旨及證書ヲ充分ニ知了スル爲メ必要ナル總テノモノヲ舉ク可キコト

第二、證書ノ紛失竝ニ督促裁判手續ヲ申立ル權利ノ定マル事實ヲ證明スヘキコト

第三、供述ノ眞實ナルコトニ付キ宣誓ヲ以テ保證ヲナスコトヲ申出ツヘキコト

獨 第八百四十一條 證書ノ持主ハ督促ヲ以テ遅クトモ督促期日ニ其權利ヲ裁判所ニ申出及ヒ證書ヲ呈出スヘキコトヲ督促ヲ以テ督促セラルルモノトス權利ノ損害トシテ證書ノ無効言渡ヲナスコトヲ嚴戒スヘシ

獨 第八百四十二條 督促ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ貼附シ及ヒ督促裁判所ノ所在地ニ

相場合所ノ存スルトキハ其會所内ニ貼附シ竝ニ第八百八十七條第二項ニ記載シタル公告紙ニ三回記載シテ之ヲナスモノトス

裁判所ハ尙ホ他ノ公告紙ニ數回記載スヘキコトヲ命スルヲ得

獨 第八百四十七條 獨逸官報ニ督促ノ第一記載ヲ爲シタル日ト督促期日トノ間ハ少クトモ六月ノ時間アルヘキモノトス

獨 第八百四十八條 失權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリトスルノ言渡ヲナスヘキモノトス

失權判決ノ要旨ハ獨逸官報ヲ以テ公告スヘキモノトス

不服訴訟ニ依リ言渡シタル判決ノ公告ハ判決確定シタル後前項同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス但其判決ヲ以テ無効ノ言渡ヲ廢棄スルトキニ限ル

獨 第八百五十條 失權判決ヲナサシメタル者ハ證書ニ依リ義務ヲ負擔シタル者ニ對シ證書ヨリ生スル權利ヲ執行スルノ權ヲ有スルモノトス

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

〔解義〕〔理由〕〔的例〕第七百八十六條ハ仲裁ノ性質及ヒ仲裁契約ニ必要ナル條件ヲ示定シ第七百八十七條ハ仲裁契約ノ無効ナル場合ヲ示定セリ

第七百八十六條 仲裁手續トハ原被問ノ争ヲ裁判所ニ訴ニスシテ一名又ハ數名ノ仲裁人タル一私人ニ託シテ判斷セシムルヲ謂フナリ

此仲裁契約ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り有効ナリ何トナレハ仲裁契約ヲ爲スハ一ノ和解ヲ爲スニ過キサレハナリ而シテ何人カ和解ヲ爲スノ權アルヤハ民法財産取得編第百十條乃至第百十四條及ヒ同財産編第三百四條第三百五條ヲ緘閱セハ之ヲ知了スルコトヲ得ヘシ

第七百八十七條 仲裁契約ハ當ニ現在ノ争ニ止ラス將來ノ争ニ關シテモ亦之ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ將來ノ争ニ關スルトキハ權利關係一定シ且其關係ヨリ生スル争ナラサル可ラス例エハ甲乙間貸借契約ヲ爲シ後日其契約ヨリ争ヲ生スルトキハ仲裁人ノ判斷ニ任サシコトヲ豫約スルコトヲ得ヘシ若シ漢焉予ト子トノ間ニ争ヲ生スルコトアレハ仲裁判斷ニ任ス可シトノ契約ヲ爲ストキハ決シテ其効力ヲ生セサルモノトス

〔參照〕獨 第八百五十一條 一訴訟ノ判決ヲ一名又ハ數名ノ仲裁裁判官ニ於テナスヘシ

ノ契約ハ原被告訴訟事件ニ付キ和解ヲ取結ノ權アル場合ニ限り法律上効力ヲ有スルモノトス

獨 第八百五十二條 將來ニ係ル訴訟ニ付テノ仲裁契約ハ一定ノ權利上關係及之ニ依テ生スル訴訟ニ關セサルトキハ法律上効力ヲ有セサルモノトス

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定メナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲スコキ旨ヲ催告ス可シ
右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後
又相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非ラサル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタル

キハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

〔解義〕 第七百八十八條乃至第七百九十二條ハ仲裁人ノ選定及ヒ仲裁人忌避ニ關スル規定トナリ

第七百八十八條 仲裁契約ニ誰某ヲ以テ仲裁人ト爲スノ契約アルトキハ固ヨリ之ニ從フニシト雖トモ若シ此事ノ契約アラサルトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定スルノ權利アリ實際ニ於テハ蓋シ仲裁ニ巧者ナル人ヲ選定シ置クナラン

第七百八十九條 當事者雙方ニ仲裁人ヲ選定スル權利アルトキハ當事者ノ一方ハ先ツ仲

裁人ヲ選定シ而シテ其撰定シタル仲裁人ヲ書面ヲ以テ相手方ニ指示シ且七日期間内ニ同一ノ手續ヲ以テ仲裁人ヲ撰定シ己レニ指示ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ得可シ若シ對手人其期間ヲ空過シタルトキハ管轄裁判所ニ向ヒ仲裁人ノ撰定ヲ申請スルコトヲ得ヘシ

第七百九十條 前條ニ從ヒ相手方ニ仲裁人撰定ノ通知ヲ爲シタルトキハ相手方ノ承諾ナクシテ其撰定變更スルコトヲ得ス

第七百九十一條 仲裁契約ニ基キ命セサル仲裁人死亡シ若クハ其他ノ原因ニ依リ例ニハ精神病ニ罹リ若クハ次條ニ依リ忌避セラレタルカ爲メ其職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ仲裁裁判ノ擔任若クハ施行ヲ拒ムトキハ其仲裁人ヲ撰定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ依リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ撰定スルノ義務アリ若シ此期間ヲ空過シタルトキハ第七百八十九條第二項ノ規定ト同シ管轄裁判所ニ其撰定ヲ申請スルコトヲ得ヘシ

仲裁契約ニ於テ撰定シタル仲裁人カ右等ノ事情アルトキハ如何ス可キヤハ第七百九十三條ニ至リ知了スルコトヲ得ヘシ

○仲裁手續

〔參照〕 獨 第八百五十四條 仲裁契約ニ仲裁裁判官ノ指名ニ付テノ定款ヲ掲ケサルトキ
原被告各方ハ仲裁裁判官一名ヲ指名スルモノトス

獨 第八百五十五條 仲裁裁判官ヲ指名スルノ權原被告雙方ニ屬スルトキ擔當スル一方
ハ對手ニ書面ヲ以テ仲裁裁判官ヲ指名シ同時ニ一週ノ期限内ニ對手モ亦同一ノ手續ヲナ
スヘキコトヲ督促スヘキモノトス

此期限空シク經過スルノ後ハ權限ヲ有スル裁判所擔當スル一方ノ申立ニ依リ仲裁裁判官
ヲ指名スルモノトス

獨 第八百五十六條 原被告ノ一方ハ仲裁裁判官ノ指名ノ通知ヲ對手ノ受取リタルトキ
直ニ對手ニ對シ其指名ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

獨 第八百五十七條 仲裁契約ニ指名セザリシ仲裁裁判官死去シ又ハ其他ノ理由ニ依リ
退去シ又ハ仲裁裁判官ノ職務執行ヲ拒絕スルトキ其指名ヲナシタル一方ハ對手ノ督促ニ
依リ一週期限内ニ他ノ仲裁裁判官ヲ指定スヘキモノトス此期限空シク經過スルトキハ權
限ヲ有スル裁判所擔當スル一方ノ申立ニ依リ仲裁裁判官ヲ指名スルモノトス

獨 第八百五十八條 仲裁裁判官ハ裁判官ヲ忌避スルノ權アルト同一ノ理由及ヒ要件ニ
依リ之ヲ忌避スルコトヲ得其他忌避ハ仲裁契約ニ指名セザリシ仲裁裁判官其義務ノ履行
ヲ不當ニ遲延スルトキ之ヲナスコトヲ得
婦、未丁年者、癡者、醜者及公權ヲ剝奪セラレタル者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ
爲サザリシトキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死
亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人
ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ
〔解義〕 本條ハ仲裁契約ニ於テ仲裁人ヲ撰定シタル場合ニ於テ仲裁人ニ第七百九十一條ト
同一ノ事情アルトキ又ハ仲裁人カ其意見ノ可否同數ナルトキニ當リ若シ他ノ仲裁人ヲ撰
ムヘシトノ約束アラサルトキハ仲裁契約ノ効力ヲ失フ可キコトヲ示定セシマテニシテ別
ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第八百五十九條 仲裁契約ハ原被告雙方ノ契約ヲ以テ豫メ左ノ場合ノ爲メ處
置ヲナサザリシトキハ効力ヲ失フモノトス

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁裁判官ニ指名シ其裁判官死去シ又ハ其他ノ理由ニ依リ
退去シ又ハ仲裁裁判官ノ職務ヲ引受ルコトヲ拒絕シ又其裁判官ト取結ヒタル契約ヲ解キ
又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトス

第二 仲裁裁判官其決議ノ可否同數ナルコトヲ原被告雙方ニ通告スルトキ

○仲裁手續

第七百九十四條 仲裁人ハ件裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限
 リハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ
 仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ
 意見ヲ以テ之ヲ定ム

〔解義〕 本條ハ仲裁人カ判斷ヲ爲ス前當事者ヲ審訊シ事件ノ關係ヲ探知シ又意見ヲ以テ仲
 裁手續ヲ定ム可キコトヲ示定セリ

仲裁人ハ恰モ裁判官ノ職務ヲ行フモノナルヲ以テ仲裁判斷ヲ爲ス以前當事者ヲ審訊スル
 ヲ以テ正則トナス然レトモ當事者ヲ審訊スルノ必要ナシト思考シ且當事者ニ於テモ之ヲ
 承諾スルトキハ必ス審訊スルヲ要セサルナリ

又仲裁人ニ於テ事件ノ關係ヲ詳悉スルノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ探知スルコトヲ得
 へシ

仲裁人ノ仲裁手續即チ仲裁判斷ヲ爲スニ付テノ諸多ノ手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定
 ムルモノトス然レトモ仲裁契約ニ於テ其手續ヲ定ムルカ又ハ其以後ニ於テ當事者カ合意
 シテ其手續ヲ定ムルトキハ固ヨリ之ニ從ハサル可ラス

〔參照〕 獨 第八百六十條 仲裁裁判官ハ仲裁裁判ノ言渡前原被告雙方ヲ尋問シ及ヒ争ヒ
 ノ理由トナル事件上關係ヲ索知スヘキモノトス但其索知ハ必要ナリト認ムル限
 仲裁裁判手續ニ付キ原被告雙方ノ契約ナキハ仲裁裁判官其見込ヲ以テ其手續ヲ定ルモ

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊
 問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

〔解義〕 本條ハ仲裁人ニ於テ證人及ヒ鑑定人ヲ訊問シ得ヘキコトヲ示定セリ

仲裁人ハ任意ニ出頭シタル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得ヘシ然レトモ仲裁人ハ眞
 ノ裁判官ニ非テサルヲ以テ此等ノ者ヲ呼出シ又ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス實際ニ於
 テハ證人鑑定人ハ當事者ノ依頼ニ依リ任意ニ出頭スルナルヘシ

〔參照〕 獨 第八百六十二條 仲裁裁判官ハ其面前ニ任意出席スル證人及ヒ鑑定人ヲ尋問
 スルコトヲ得

第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲
 スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但
 其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル
 證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述ブルコト又ハ鑑定
 ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

○仲裁手續

〔解義〕 本條ハ仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行為ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ依リ管轄裁判所之ヲ爲スコキコトヲ示定セリ

仲裁人ノ爲スコトヲ得サル行為トハ證人鑑定人ヲ呼出シ又ハ證書ノ提出ヲ命シ若シハ證書ノ驗眞ヲ爲スカ如キヲ云フ此等ノ行為ヲ盡スニ非ラサレハ十分ナル判斷ヲ爲スコラスト思惟スルトキハ當事者ヨリ之ヲ管轄裁判所ニ申立テ裁判所ニ於テ之カ取調ヲ爲スコキナリ然レトモ裁判所ハ必要ト認メサルトキハ必ス其取調ヲ爲スコトヲ要セサルナリ
裁判所證人鑑定人ニ供述ヲ命シタルニ其陳述ヲ拒ムトキハ通常證人鑑定人ニ於ケル制裁ヲ加フルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第八百六十二條 仲裁裁判官裁判官ノ處分ヲ必要ナリト認メ自ラ之ヲ爲スノ權ナキトキハ權限ヲ有スル裁判所一方ノ申立ニ依リ其處分ヲナスヘキモノトス但其申立ヲ許サレタルモノト認ルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ノ尋問又ハ宣誓ヲ命シタル裁判所ハ證言又ハ鑑定ヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦ナスノ權アルモノトス

第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スコカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有効ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷スコキ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖トモ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

トヲ得

〔解義〕 本條ハ當事者ヨリ何等ノ異議アルトモ之ニ拘ラスシテ仲裁判斷ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定セリ

仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スコラサルコト殊ニ正當ノ仲裁契約成立セス又ハ仲裁契約ハ現ニ裁判スコキ爭論ニ關セス又ハ仲裁人ハ仲裁裁判ノ職務ヲ行フノ權利ナキコトヲ主張スルトキハ其意見ニ從ヒ之ニ付キ管轄裁判所ノ裁判アルマテ仲裁手續ヲ中止シ又ハ前述ノ主張アルニ拘ラス仲裁手續ヲ繼續シテ仲裁裁判ヲ爲スコトヲ得此最後ノ場合ニ於テハ其主張ニ係ル事項ニ付キ後ニ管轄裁判所ノ裁判スル所トナルヘシ(第八百一條)

〔參照〕 獨 第八百六十三條 仲裁裁判官ハ仲裁裁判官ノ裁判手續ノ許サレサルコトヲ主張スルトキ特ニ法律上有効ナル仲裁契約ノ存立セサルコト又ハ仲裁契約裁決スヘキ訴訟ニ關係ナキコト又ハ仲裁裁判官其職務ヲ執行スルノ權ナキコトヲ申立ルトキト雖トモ仲裁裁判手續ヲ繼續シ及仲裁判決ヲ言渡スコトヲ得

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコキトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲スコシ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印スコシ

○仲裁手續

仲裁人ノ署名捺印シタル判断ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條 仲裁判断ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

〔解義〕 第七百九十八條ハ數名ノ仲裁人カ仲裁判断ヲ爲ストキハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可キコトヲ第七百九十九條ハ仲裁判断書ノ方式等ヲ第八百條ハ仲裁判断ノ効力ヲ示定セリ
第七百九十八條 仲裁判断ニシテ數名ノ仲裁人之ヲ爲ス可キ場合ニ於テ仲裁契約ニ別段ノ定アラサルトキハ過半數ヲ以テ之ヲ決定ス若シ同數ナルトキ又ハ過半數ヲ得サルトキハ仲裁契約ハ其効力ヲ失フモノトス然レトモ原被告豫メ此等ノ場合ニ對シ契約ヲ以テ處理ス可キ方法ヲ定ムルトキハ此限ニアラス

第七百九十九條 仲裁判断ハ恰モ裁判官ノ作リタル判決書ト同一ナルヲ以テ其調製ノ年月日ヲ記シテ仲裁人之ニ署名捺印スヘシ又署名捺印シタル正本ヲ當事者ニ送達シ判断書ノ原本ニ送達證書ヲ添付シテ之ヲ管轄裁判所ノ書記課ニ附托スルモノトス裁判所トハ第八百五條ニ在ル裁判所ヲ謂フナリ

第八百條 正當ノ手續ヲ以テ送達シタル仲裁判断ハ當事者ニ對シ裁判所ニ於テ爲シタル確定判決ト同一ノ効力ヲ有ス故ニ其取消ハ上訴若シハ故障ヲ以テ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

唯取消訴訟及ヒ原狀回復訴訟ニ相當スル訴訟ヲ管轄裁判所ニ爲シテ之ヲ求ムルコトヲ得ヘシ此事ハ次條ニ規定セリ

〔參照〕 獨 第八百六十四條 數名ノ仲裁裁判官仲裁判決ヲ言渡スヘキトキハ仲裁契約ニ別段ノ定メナキトキニ限リ過半數ヲ以テ裁決スルモノトス

獨 第八百六十五條 仲裁判決書ハ其調製ノ日ヲ記シテ仲裁裁判官之ニ署名シ原被告雙方ニハ仲裁裁判官ノ署名シタル公製書ヲ以テ送達シ及其送達證書ヲ添ヘテ權限ヲ有スル裁判所書記局ニ之ヲ備置クヘキモノトス

獨 第八百六十六條 仲裁判決ハ原被告雙方ノ間ニ於テ裁判所ノ確定判決ノ効力ヲ有スルモノトス

第八百一條 仲裁判断ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ

第二 仲裁判断カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ
 第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔解義〕 本條ハ仲裁判斷ヲ取消シ得ヘキ場合ヲ示定セリ

仲裁判斷ハ左ニ掲ケル事情アルトキハ之カ取消ヲ訴フルコトヲ得ヘシ

- 一 仲裁手續ヲ許ス可ラザリシトキ(第七百九十七條)
- 二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ(第五百十五條第二號)

三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ(第四百三十六條第五號及ヒ第四百六十八條第四)然レトモ訴訟行爲ヲ明諾若クハ默諾シタルトキハ格別ナリ

四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ(第七百九十四條)

五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ(第二百三十六條第三號第四百三十六條第七號)

六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

キ

當事者間ノ契約ニ依リ仲裁判斷ニ理由ヲ付スルニ及ハサルコト又ハ法律上ノ訊問ヲ受ケサルコトヲ約シタルトキハ假令第四號第五號ノ理由アルトキト雖トモ仲裁判斷ヲ取消スコトヲ得ス

〔參照〕 獨 第八百六十七條 左ノ場合ニ於テハ仲裁判斷ノ廢棄ヲ申立ルコトヲ得

第一 裁判手續ノ許サレサルモノナリシトキ

第二 仲裁裁判ヲ以テ原被告ノ一方ニ對シ其ナスコトヲ禁止セラレタル行爲ヲナサシムルノ言渡シヲナストキ

第三 原被告ノ一方裁判手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ但其一方訴訟ヲナスコトヲ明諾又ハ默諾セシトキハ此限ニアラス

第四 裁判手續ニ於テ原被告ノ一方ニ對シ法律上ノ尋問ヲナサザリシトキ

第五 仲裁判決ニ理由ヲ備ヘザリシトキ

第六 第五百四十三條第一ヨリ第六マテノ場合ニ於テ故態恢復訴訟ヲナスコトヲ得ルノ要件存スルトキ

仲裁判決ノ廢棄ハ原被告雙方ニ於テ別段ノ契約アルトキニ限り第四第五ニ記載シタル理由ニ依テ之ヲナスコトヲ得ス

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許スヘキ

コトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキ
ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六
號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己
ノ過失ニ非ラスシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコ
トヲ説明シタルトキニ限ル

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間
内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行
判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日
ヨリ起算シテ五午年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストハキ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

〔解義〕 第八百二條ハ仲裁判斷ニ因ル強制執行ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ爲シ得ヘキヤチ
示定シ第八百三條ハ執行判決ヲ爲シタル後ハ或ル場合ヲ除クノ外之ヲ取消ス可ラサルコ

トテ示定シ第八百四條ハ仲裁判斷取消ノ訴ニ付テハ期間ヲ示定セリ

第八百二條 仲裁判斷ニ因テ爲ス強制執行ハ豫メ口頭審理ヲ爲シタル後執行判決ヲ以テ
仲裁判斷ノ正當ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ヘシ要スルニ第五百
十四條ト同一ノ手續ナルヘシ

此判決ハ管轄裁判所ニ訴訟ヲ提起シテ之ヲ求ムヘシ然レトモ該判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ
求メ得ヘキ原由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ノ存スルトキニ限
リ仲裁判斷ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ此場合ト雖トモ當事者カ其過失ナクシテ前手續
ニ於テ原由ヲ申立テ得サリシコトヲ明示スルトキニ限り之ヲ許スモノトス

第八百四條 前條ノ場合ニ於ケル仲裁判斷取消ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ提起ス可シ
其期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決確定前ニハ其
期限始マラサルモノナリ而シテ執行判決確定後五午年ノ滿了後ハ此訴ヲ爲スコトヲ許サ
ス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ其從タル執行判決ノ取消ヲモ亦言渡スモノトス

〔參照〕 獨 第八百六十八條 仲裁裁判ニ依テ爲ス強制執行ハ其許サレタルコトヲ執行判
決ヲ以テ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

其執行判決ハ仲裁判決ノ廢棄ヲ申立ルコトヲ得ル理由ノ存スルトキハ之ヲ言渡スヘカラ

○仲裁手續

サレモノトス
 獨 第八百六十九條 執行判決言渡ノ後仲裁判決ノ廢棄ハ原告ノ一方其過失ナクシテ前裁判手續ニ於テ廢棄ノ理由ヲ申立ルコト能ハサリシコトヲ證明シ及第八百六十七條第六ニ記載シタル理由ニ依ルニアツサレハ申立ツルコトヲ得ス
 獨 第八百七十條 仲裁判決ノ廢棄ヲ求ムル訴訟ハ前條ノ場合ニ於テハ一月ノ不變期限内ニ之ヲ提起スヘキモノトス
 其期限ハ原告ノ一方廢棄ノ理由ヲ知了シタル日ヲ以テ始マリ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス其判決確定ノ日ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 仲裁判決ヲ廢棄スルトキハ同時ニ執行判決ノ廢棄ヲ言渡スヘキモノトス

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許スヘカラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス
 前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最

初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

〔解義〕 本條ハ仲裁手續ニ關スル管轄裁判所ヲ示定セリ

仲裁人ヲ撰定シ若クハ忌避スル訴訟(第七百八十九條第二項第七百九十一條第七百九十二條)仲裁契約ノ消滅ニ關スル訴訟、仲裁判斷ノ當否ニ關スル訴訟(第七百九十七條)仲裁判決ノ取消ニ關スル訴訟(第八百一一條)執行判決ノ言渡ニ關スル訴訟(第八百二條)ニ付テハ仲裁契約書ニ管轄ナリト示定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ若シ其指定ナキトキハ其訴訟ノ屬スヘキ裁判所之ヲ管轄ス又數多ノ裁判所アルトキハ其裁判所中原被告若クハ仲裁裁判官ヨリ最初ニ其裁判ヲ求メタル裁判所ニ之ヲ提起スヘシ
 〔參照〕 獨 第八百七十一條 仲裁裁判官ノ指名又ハ忌避仲裁契約ノ解除仲裁裁判官ノ裁判手續ノ許サレサルコト仲裁判決ノ廢棄又ハ執行判決ノ言渡ニ關スル訴訟ニ付テハ書面上仲裁契約ニ記載シタル區裁判所又ハ地方裁判所權限ヲ有シ其記載ナキトキハ裁判上請求ノ申立ニ付キ權限ヲ有スルモノトス
 前項ニ從ヒ權限ヲ有スル數箇ノ裁判所アルトキハ原告ノ一方又ハ仲裁裁判所(第八百六十五條)ヨリ最初ニ關係セシメラルタル裁判所權限ヲ有スルモノトス

民事訴訟法要解畢

○仲裁手續

明治二十四年十二月十四日印刷
明治二十四年十二月十五日出版



著作兼版權所有者

發行者

印刷者

發行所

全

印刷所

正價金壹圓五拾錢

大 戶 復 三

岡山縣岡山市大字
下田町寄留

北 村 長 太

岡山縣岡山市大字
上ノ町六十一番邸

松 井 壽 士

岡山縣岡山市大字
下西川町百七番邸

細 謹

岡山縣岡山市大字
上ノ町

森 博 文

岡山縣岡山市大字
中ノ町

文 友

岡山縣岡山市大字
東中山下(車町通)

館 堂 舍 朗 郎 郎

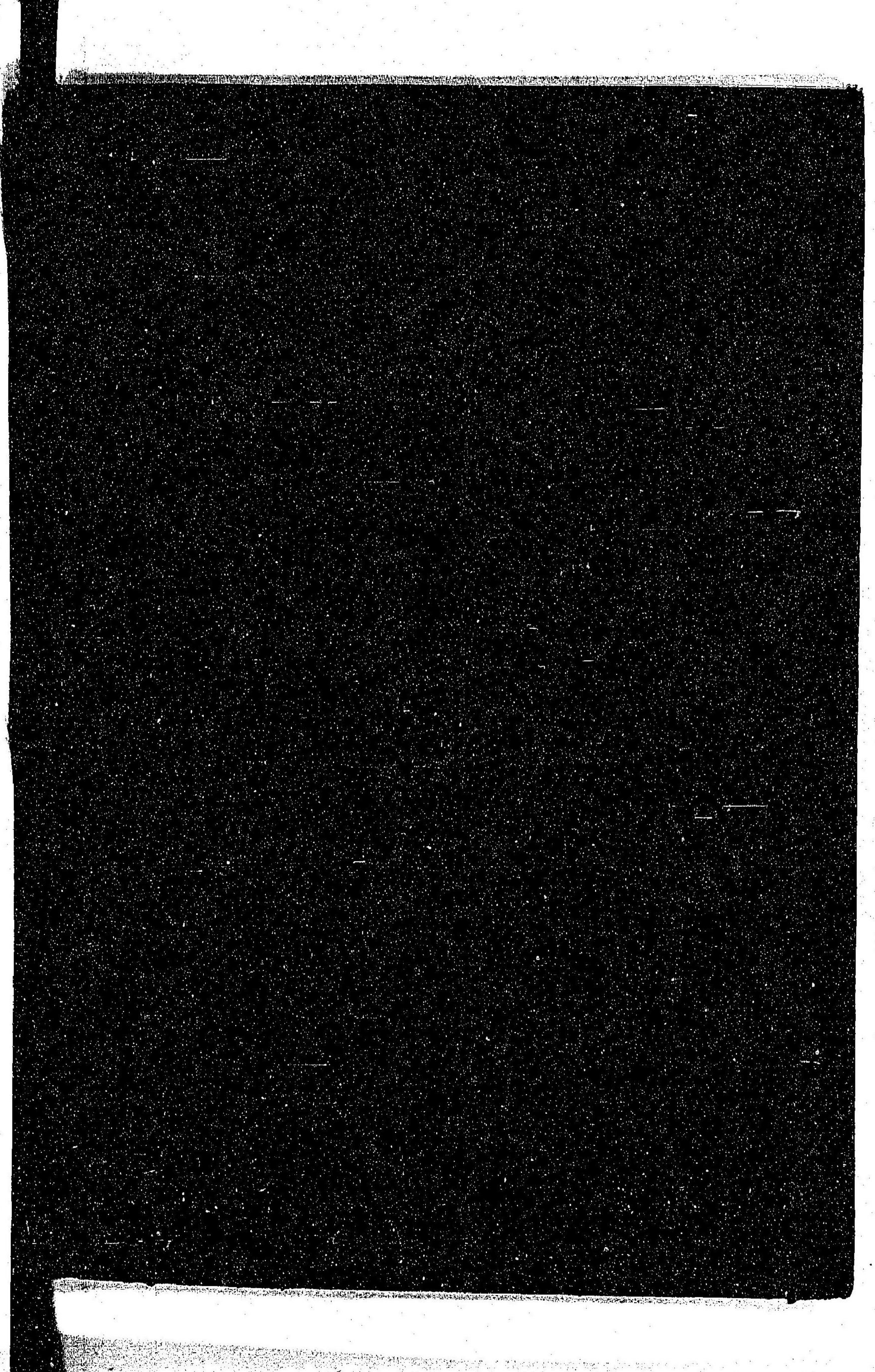


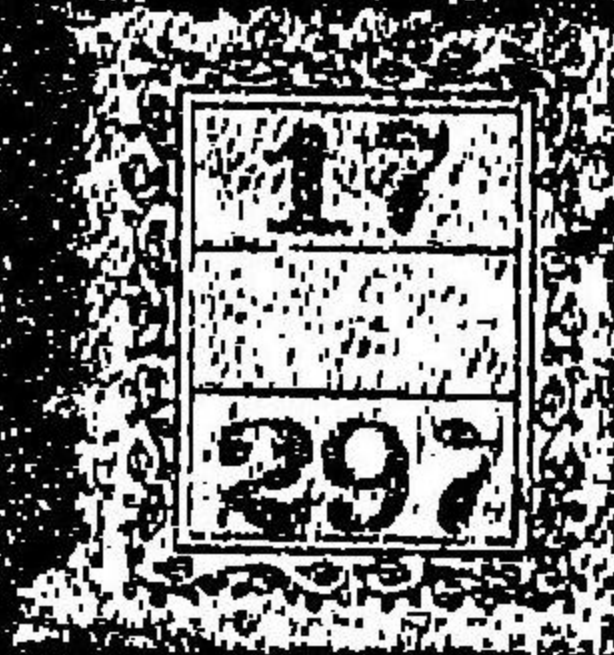
民國二十六年十二月二十日

全 國 統 一 領 土 行 動 綱 要

第一 領土之統一
第二 領土之整理
第三 領土之開發
第四 領土之防禦

17
297





037195-000-7

17-297

民事訴訟法要解

大戸 復三郎 / 著

M24

BBS-0810



